

2023年度

年 報



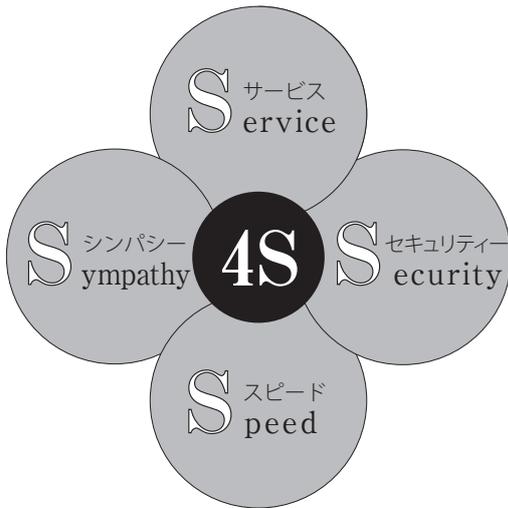
独立行政法人 地域医療機能推進機構

相模野病院

Sagamino Hospital



独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 基本理念



- S e r v i c e
先進の医療を快適に提供します
- S y m p a t h y
患者の皆様と想いを共有します
- S e c u r i t y
優れた安全対策で皆様を守ります
- S p e e d
すべてに迅速な対応を心がけます



独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 基本方針

1 患者第一主義

常に診療を受ける皆様の立場で考え誠実に行動します

2 安全確保

すべての診療現場で患者の皆様が安心できる環境を作り
安全で質の高い医療を提供します

3 社会貢献

良質な医療提供を基本として積極的に社会に貢献をします

4 公正で透明性のある病院

高い倫理観に基づき様々な情報を開示します

5 働きがいのある職場作り

創造性、主体性を尊重しあい自由で働きやすい職場を実現します



独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 施設認定



FS 522898 ISO 9001 : 2015

ISO 9001

認定日：2007年12月18日



人間ドック・健診施設機能評価認定第191号

日本病院会 日本人間ドック学会認定

認定日：2008年1月15日





発刊のご挨拶

独立行政法人 地域医療機能推進機構 相模野病院

院長 今 泉 弘

2023年度年報を発刊するにあたり、心より皆様にお礼申し上げます。当院は、地域の皆様の信頼と期待に応えるべく、日々精進を重ねてまいりました。

過去一年間、私たちは様々な試練に直面しましたが、その中で結束力を高め、困難を乗り越えてまいりました。職員一丸となって患者様と地域の皆様の安全と健康を守るために努力しました。この場をおかりして日々の困難を克服しながら医療従事者としての誇りをもって地域医療に貢献して下さった相模野病院全職員に「ありがとうございます」と言わせてください。

当院は従来から「病院機能」と「健康管理センター」の両輪で地域医療に根ざした医療サービスを提供してまいりました。さらに医療の質と安全性の向上にも重点を置いています。常にチームワークを重んじ、情報共有や連携を強化することで、より良い医療を提供できるよう努めています。患者さんやそのご家族の方々に安心して治療を受けていただける環境を整えるために、安全対策や品質管理の強化にも取り組んでいます。2024年度は医師の働き方改革、診療報酬改定などの課題もありますが、相模野病院は成長し続ける病院をめざします。

なお私ごとではございますが、2023年度をもって私は相模野病院の院長を退任いたします。2020年に院長を拝命したのち4年間、当院の職員の皆様と一緒に働けたことは私にとってかけがえのない時間となりました。また、在任中に当院を支援していただいた地域住民の方々、相模原医師会、歯科医師会、薬剤師会、病院協会、行政の皆様はこの場をおかりして御礼を申し上げます。

この年報を通じて、私たちの取り組みや成果を皆様にご報告できることを嬉しく思います。そして、これからも地域の皆様の健康と幸福のために、さらなる努力と貢献を続けてまいります。引き続き、新体制となる相模野病院にご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



年報発行に寄せて

事務部長 織田 修治

事務部長の織田修治と申します。早いもので当院に着任し2年が経過いたしました。日頃からの当地域の皆さまからのご支援、ご指導、並びに当院職員の弛みない努力にこの場をお借りして心より御礼並びに感謝を申し上げます。

さて、年報の発行に寄せ、昨年度の当院の運営についてご報告申し上げます。皆さまもご承知のとおりですが、令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の区分が5類へと位置付けられました。

これまで長期間ご遠慮いただいております患者さんへのご面会も全面的な再開には至りませんでした。時間・人数等を制限させていただきながら再開いたしました。その一方で短期間ではありますが、院内でのクラスター発生等もあり、決して油断してはならない感染症であることを再認識いたしました。

患者さん・職員ともに、これ以上感染者数が増加しないよう、日々祈るような思いで薄氷を踏むような病院運営が継続したことは、皆さまの想像に難くないものと思われま。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の5類位置付けによるプラスの要素もありました。7月20日には、JCHO法の規定により開催される『地域協議会』を医師会、病院協会関係各位、当地域の皆さま及び行政機関等の皆さまと対面にて実施することができ、貴重なご意見を伺うことができました。

10月18日には、コロナ禍以前には例年実施して参りました、『顔の見える地域連携の会』を、例年よりもささやかなものではありましたが近隣の開業医の先生方のご出席を賜り再開することができ、大変有意義な時間となりました。

さらに11月10日には、日頃より当院健診センターをご利用下さっている企業の皆さま等にご参集いただき、久しぶりにオンサイトでの『健康講演会』の開催の機会を得ることができ、それぞれの会の開催をととても喜ばしく思っております。

院内での集合研修も再開され、活発に行われ始めております。

一方、大変残念な出来事もありました。既に当院のホームページ等でご覧になられた方もいらっしゃるかと存じますが、10月下旬に個人情報取扱いに不手際が生じ、関係する皆さま方には多大なご迷惑とご心配をおかけいたしましたことについて、本紙面をお借りして改めてお詫びを申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

当院では再度、業務手順や管理方法等を新たに認識する絶好の機会と捉え、教育研修を行う等、この事例を糧といたしまして、今後このようなことを決して起こさぬよう、職員一同が一丸となって日々の業務を的確に行って参ります。

また、今後発生するであろう、新型感染症への対応に向けた神奈川県との協定の締結、令和6年度より開始される、目前に迫った医師の働き方改革への様々な実地での対応もいよいよ待たなしとなります。

令和5年度も、世界情勢の変化による物価・光熱費の高騰等、半導体等の電子部品を用いた医療機器等の入手困難等々、病院運営においては、様々な障壁がありましたが、最終的には一定の成績を維持することができました。これもひとえに職員の弛まぬ努力の賜物であると考えております。

今後とも、当地域の皆さま方のご意見を伺いつつ、当地域の医療体制に貢献できるよう精一杯努めて参ります。引き続きご指導の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



年報に寄せて

看護部長 出口 孝子

2023 年度を振り返り、看護部の取組と成果および課題についてお示しします。

今年度も COVID19 による入院制限のある中でも、ゾーニングしながら積極的に入院患者さんの受け入れをすることができました。看護職員も感染等により休む中、昨年度同様、リリーフし合い協力して部署を運営することが出来ました。さらに、リリーフ体制についての課題が明確になったため、看護師長と共に取り組みたいと思います。

人材確保では、看護師のみでなく、看護補助者のインターンシップを開催し、確保につなげることができました。また、JCHO 横浜中央病院附属看護専門学校の閉校後の看護学生の次年度の新規実習受け入れについては、県立よこはま看護専門学校の実習施設となることが決定しました。実習しやすく学び多き環境づくりに取り組み、後進育成に注力したいと思います。

働き方改革では、複数の処置を看護師が請け負い、医師の負担軽減への取組ができました。次年度も、看護職員がより専門性の高い業務に専念できるよう、継続してタスクシフトに取り組みたいと思います。

地域連絡協議会を活用し、化学療法外来と産婦人科病棟より、看護の内容について講演し、たくさんのご意見を頂くことができました。地域に根差した病院であり続けるために、率直な要望や反響を頂くことは大変励みにもなりました。地域の方に関心を持っていただき選ばれる病院を目指し、次年度も是非継続したいと考えます。

また、元日の震災に伴い、神奈川県災害支援看護師として1名、厚労省から JCHO への依頼で被災地の病院勤務として1名を石川県に派遣し、短期間ではありましたが被災地でお役に立つことが出来ました。インフラなどの制限のある中、そこで可能な医療・看護の提供が出来たことは、派遣された看護師としても大きな学びになったと思います。

目 次

基本理念

発刊のご挨拶

院 長	今泉 弘
事務部長	織田 修治
看護部長	出口 孝子

I 病院の現況

病院の概要	1
組織図	2
職員配置状況	4
会議・委員会一覧	5
公衆衛生活動地域と 相模原市における診療圏	7

II 医事統計

III 診療部門

内科	15
呼吸器内科	16
循環器内科	17
血液内科	18
小児科・新生児科	19
乳腺外科	21
消化器外科	22
整形外科	24
産婦人科（周産期母子医療センター）	25
（婦人科腫瘍センター）	26
腎臓内科／血液浄化センター	27
眼科	28
歯科口腔外科	29
泌尿器科	30
麻酔科	31
消化器内科／内視鏡室	32
外来化学療法室	33

IV 医療技術部門

薬剤部	35
臨床検査部	37
放射線部	38
リハビリテーション室	39
視能訓練士	40
栄養管理室	42
ME室（臨床工学室）	43

V 看護部門

外来	45
手術室・中央材料室	46
3 A病棟	47
4 A病棟	48
4 B病棟	49
5 A病棟	50
5 B病棟	51
NICU/GCU	52
検査治療部門	53

VI 事務部門

総務企画課	55
経理課	56
医事課	57
診療情報管理室	58
医事課 医師事務作業補助員	59
安全管理室	60
総合患者支援センター	61
洗濯室	63

VII 健康管理センター

健康管理センター（診療部）	65
健康管理センター（看護部）	66
健康管理センター（事務部）	67

VIII 訪問看護ステーション

訪問看護ステーション	69
------------	----

IX 学術業績

循環器内科	71
乳腺外科	71
産婦人科（周産期母子医療センター）	71
消化器内科／内視鏡室	71
臨床検査部	72
リハビリテーション室	72
検査治療部門	72
健康管理センター（診療部）	72

I 病院の現況



病院の概要

▶ 施設概略 ◀

開設 昭和 35 年 4 月
開設者 独立行政法人地域医療機能推進機構
施設名 相模野病院
病院長 今泉 弘
所在地 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-2-30
敷地面積 10,302.06㎡
建物面積 18,535.5㎡
構造規模 鉄骨造 7 階建
駐車台数 211 台
許可病床数 212 床
職員数 471 名（令和 6 年 3 月 31 日現在）

▶ 標榜診療科目 ◀

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腎臓内科、神経内科、リウマチ科、小児科、外科、乳腺外科、血管外科、消化器外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、放射線科

▶ 診療指定 ◀

保険医療機関、労災指定、母体保護法指定、生活保護、育成医療、小児慢性疾患、被曝者、救急告示

▶ 附属施設 ◀

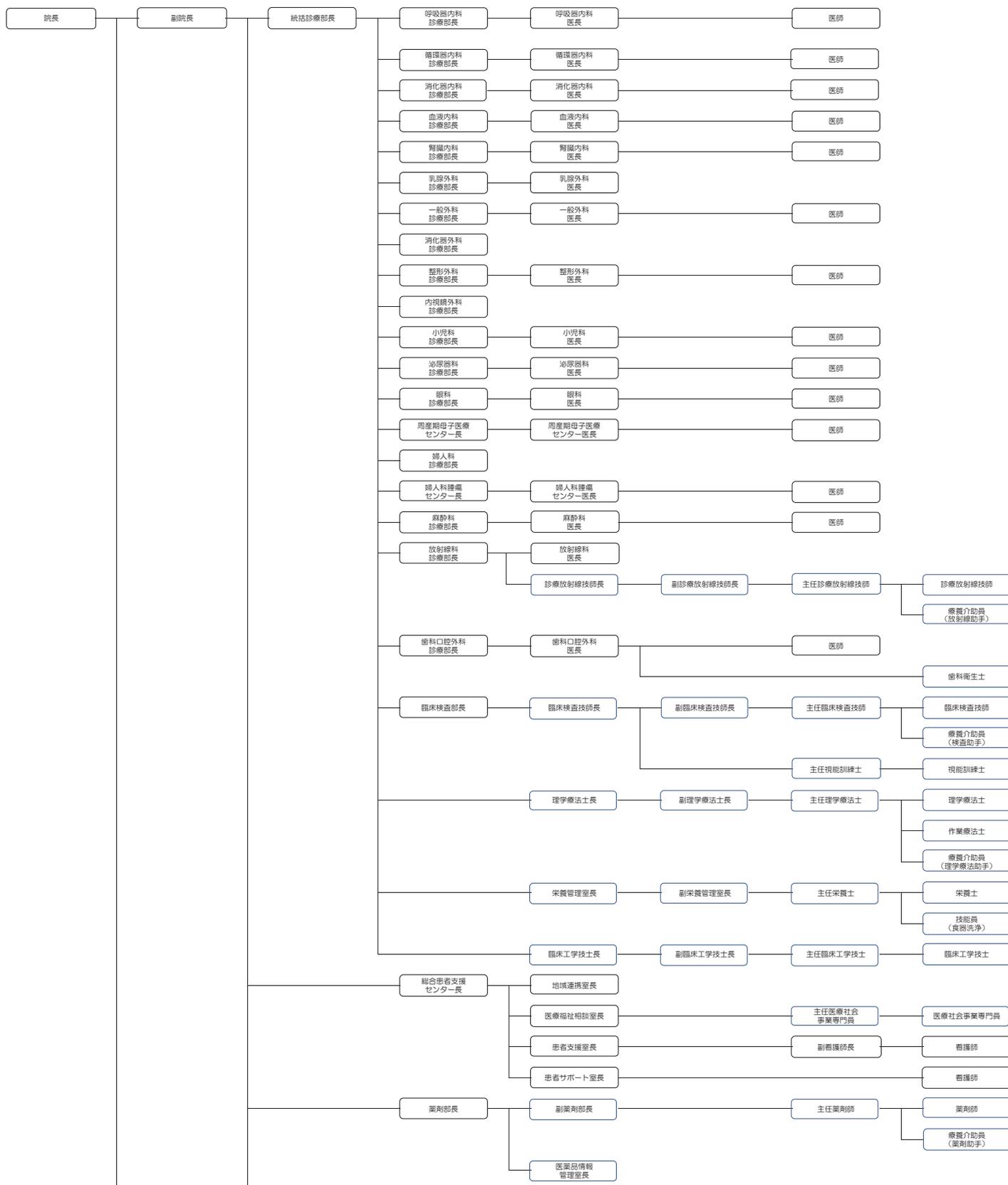
健康管理センター、周産期母子医療センター、小児成育医療センター、婦人科腫瘍センター、不妊生殖医療センター、NICU・GCU、消化器病センター、循環器病センター、血液浄化センター、訪問看護ステーション

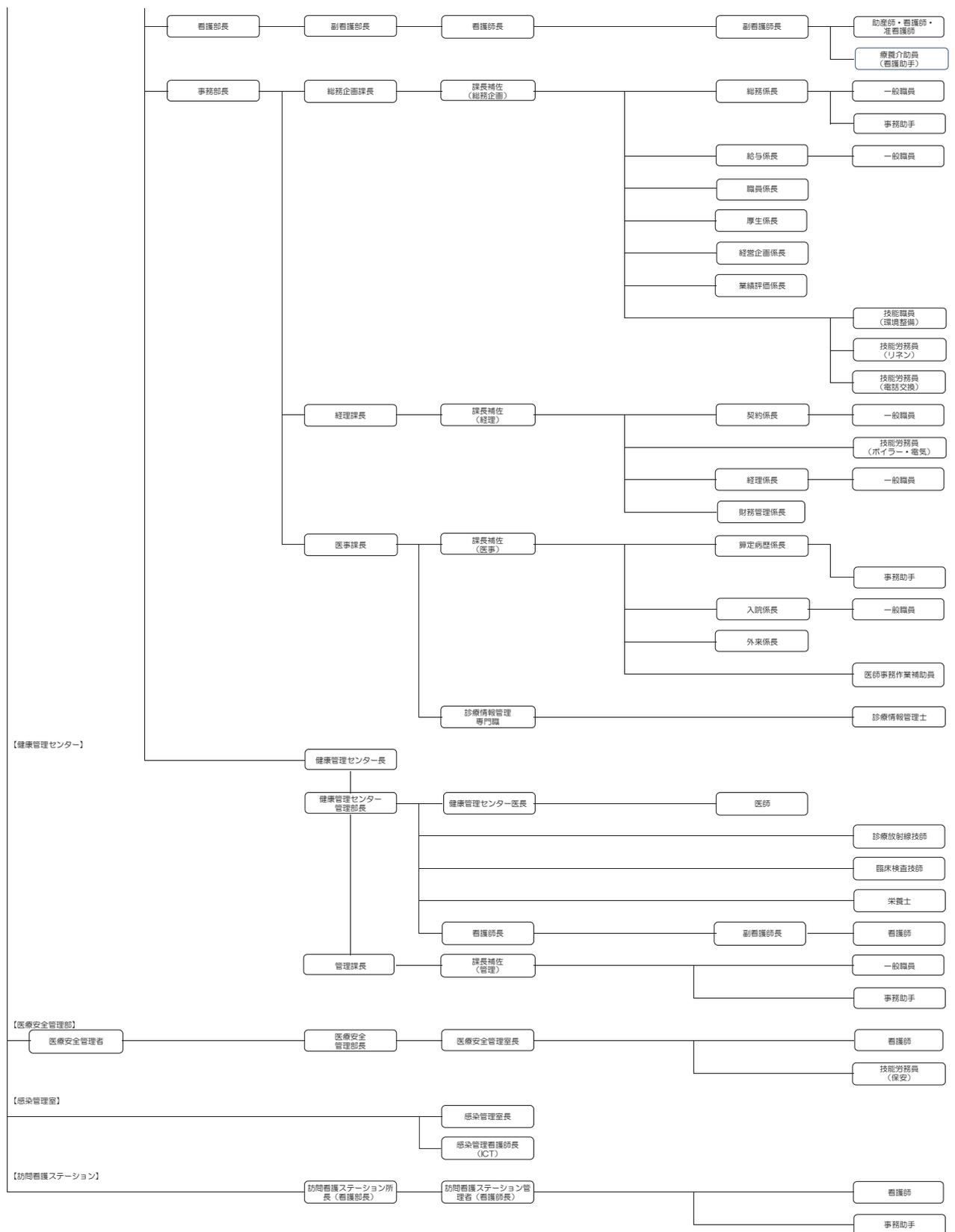
▶ 主な施設認定 ◀

- ・厚生労働省指定臨床研修施設
- ・日本周産期・新生児学会 母体・胎児指定施設
- ・日本周産期・新生児医学会 新生児指定施設
- ・母体保護法指定医師指定研修機関
- ・日本内科学会認定医制度教育関連施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働施設
- ・日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・日本血液学会認定専門研修教育施設
- ・日本外科学会外科専門医制度関連施設
- ・日本乳癌学会専門医制度認定施設
- ・日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構 遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグラフィ検診施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定施設
- ・日本泌尿器科学会泌尿器専門医教育施設
- ・日本口腔外科学会専門医制度認定准研修施設
- ・日本口腔診断学会認定研修機関
- ・日本口腔内科学会研修施設
- ・日本医学放射線学会画像診断管理認証施設 MRI 安全管理に関する事項
- ・NCD（National Clinical Database）施設会員
- ・ISO9001 認定施設
- ・健康評価施設査定機構優良認定施設
- ・日本総合健診医学会人間ドック健診専門医研修施設
- ・日本人間ドック学会人間ドック健診専門医研修施設
- ・日本人間ドック学会優良人間ドック・健診施設
- ・日本病院会優良人間ドック・健診施設
- ・日本総合健診医学会優良総合健診施設
- ・人間ドック健診施設機能評価認定施設

相模野病院 組織図

2023年7月1日現在





職員配置状況

令和6年3月31日現在

職員数	常勤職員数	任期付職員数	非常勤職員数	計	長欠者（再掲）
医師	46	5	3	54	
歯科医師	1			1	
薬剤師	12		1	13	1
臨床検査技師	17		4	21	1
診療放射線技師	16			16	
栄養士	3			3	
管理栄養士（再掲）	3			3	
理学療法士	8			8	
作業療法士	1			1	
歯科衛生士	2			2	
視能訓練士	2			2	1
臨床工学技士	7			7	
保健師	5			5	1
助産師	21	1	4	26	3
看護師	191	6	33	230	8
准看護師	2			2	
事務職員	22		14	36	2
診療情報管理員	5			5	
医療社会事業専門員	1	2		3	
医師事務作業補助者	2	2	1	5	1
調理師				0	
看護助手			1	1	
その他技能職員			6	6	
その他助手等	8	8	8	24	
合計	372	24	75	471	18

会議・委員会一覧

(1) 会議

会議名	構 成 員	目 的	開催頻度
管理者会議	院長、副院長、事務部長、看護部長、薬剤部長、総務企画課長	経営の動向に基づく方針の検討及び諸事業について協議	週1回
部長会議	院長、副院長、事務部長、看護部長、各診療科部長及び医長、医療技術各長、看護師長、事務部各課長	病院経営状況の報告（患者数、収支）、その他院長が必要とする事項の報告	月1回
医局会	全医務局員（医師及び研修医）	医師の診療活動、研究活動等に対し、それぞれ円滑に遂行されるために最大限努力することを目的とする	月1回

(2) 委員会

2024年3月31日 現在

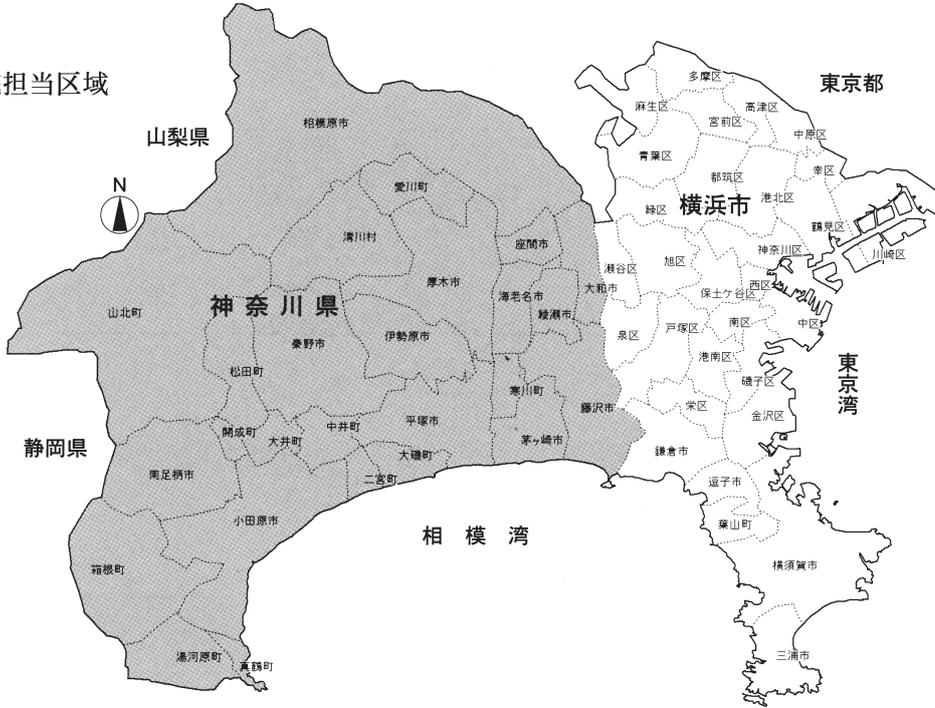
委員会名	構 成 員	目 的	開催頻度
医療安全対策委員会	医局、看護部、放射線部、薬剤部、検査部、栄養課、理学療法室、ME室、事務部の各部門長	近年の医療行為の複雑化に伴い、医療事故が多発する可能性がある。 人が行う行為であり「事故は起こる」という前提に立ち、個人の努力だけに頼るのではなく、各部門が組織的、系統的に事故防止に取り組むため、部門内、部門間に連帯的リーダーシップを発揮する会として発会する。	毎月定例 第三水曜日
感染防止対策委員会	委員長1名（医師）、副委員長1名、院長、看護部長、事務部門の責任者、各病棟医師、薬剤部長、臨床検査技師長、臨床検査技師、診療放射線技師、栄養士、事務職	病院内で問題となる感染症を予防し、発症した際にはその拡大を防ぐことであり、そのために病院全体が組織的にその対策に取り組むことを目的とする。	毎月定例 最終水曜日
褥瘡対策委員会	医師、看護師、薬剤師	褥瘡ケアの向上と維持を図り、効果的な褥瘡対策を推進するため褥瘡対策委員会を設置する。	毎月定例 第二水曜日
栄養・NST委員会	医師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、給食委託業者責任者	相模野病院において、栄養業務の企画、運営及び改善に関すること、嗜好調査に関すること、給食施設、機器の整備に関すること、その他、栄養に関することをチームで検討する。入院患者の栄養状態を判定し、栄養管理を選択、提供することで患者の回復を高め、疾病治療、感染予防、褥創予防、在院日数短縮等に貢献することを目的とする。	隔月 第二水曜日
防災対策委員会	医師、事務職、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士、警備担当者	病院の円滑かつ安全な事業の運営に資するため、防災対策、防災訓練等に係わる検討及び訓練の実施を目的とする。	随時
倫理・教育倫理・個人情報保護委員会	医師、看護部長、事務部長、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、事務職	病院において、医学研究および診療が前文の趣旨に沿った倫理的原則にもとづいて行われるために、委員会を設置する。委員会は、それぞれ基本的事項、ヒトを対象とする研究、医療行為を主たる審議事項とする。病院全職員の業務能力の適確性を明らかにし、職能要件書に基づきその能力の維持向上と患者満足のために的確な能力を有することができるよう教育訓練を実施するものである。 個人情報保護に関する法律にもとづき、病院を利用する患者様とその関係者に関する個人情報の適切な取り扱いを実施することを目的とする。	随時
倫理委員会	医師、看護部長、薬剤部、検査部、放射線部、事務職、診療情報管理士、外部委員	臨床研究と医療行為を、医の倫理に基づいて適正に行われるように配慮することを目的とする。	随時
治験委員会	①病院の専任職員で管理職員 ②病院の専任職員で管理職員以外の者（医学非専門者も含む） ③院外の学識経験者若干名	病院における治療を適正かつ円滑実施を図るため、治験委員会を設置する。	随時
手術室運営委員会	手術室室長、麻酔科医、手術室看護師長、手術室副看護師長、薬剤師、臨床工学技士、診療放射線技師	1) 患者が安全・安楽にかつ確実に手術が受けられるように専門職としての技術を身につける 2) 科学的根拠に基づき、常に患者最優先の看護を提供する 3) 手術室基準に沿って、業務を安全・円滑に実施する 4) 緊急手術に対応するため24時間体制で人員・手術器械を確保する	隔月 第三水曜日
有害事象・事故調査委員会	(1) 院内医療安全にかかわる職員 (2) 医療事故にかかわった職員 (3) 必要時外部の有識者、法律家（弁護士を含む） (4) その他安全管理室または院長が必要と認めた者	医療事故が発生した場合、一定の基準により、原因究明と再発防止について客観的な視点から公平性、透明性を高めることを目的とする。	随時

委員会名	構 成 員	目 的	開催頻度
救急対策委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、事務職	二次救急応需を円滑、適正に行われるように対策を行い、問題点をあげ改善していくことが必要である。このため、JCHO 相模野病院として相模原市救急医療への協力体制を整え、救急医療を充実させることを目的とする。	随時 (金曜日)
DPC・レセプト委員会	医師、看護師、薬剤師、事務職	DPC の適正な運用について検討する。	毎月定例 第四木曜日
診療録管理委員会	診療部、看護部、事務職、薬剤部、放射線部、検査部、診療録管理担当者	効率的なカルテ管理・診療録管理業務を図るため診療録管理委員会を設置する。	毎月定例
バス委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師	相模野病院の目標理念に基づき運営され、クリニカルバスを使用し、病院の提供する医療の質の向上をはかり社会貢献を目的とする。	奇数月定例
薬事委員会	医師、薬剤部長、看護部長、事務職等	相模野病院において使用するすべての医薬品（検査用医薬品を含む）および特定治療材料など医薬品消耗品の適正な管理と効率的な運用について必要な事項を審議することを目的とする。	随時
臨床検査適正化委員会	次に掲げる者の中から院長が任命し6名以内で組織する。 (1) 臨床検査部部长 (2) 臨床検査部代表 (3) 診療部診療部門医師代表 (4) 看護部代表	臨床検査の管理、運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、管理運営に万全を期するため、院内各部局と連携を密にし、もって当院の発展に寄与することを目的とする。	随時
輸血療法委員会	医師、臨床検査技師、薬剤師、看護師	輸血療法は、善意の献血に支えられた治療であること、人体の細胞や液体成分を利用した独自の治療法であり、かつ副作用を皆無にしえない治療という観点から、その安全性を確保するための最大限の努力を要する。	年6回定例
化学療法委員会	医師、薬剤師、看護師、事務職	相模野病院におけるがん化学療法を中心とした治療が、外来化学療法室及び入院病棟にて安全活安心に実施出来る事を目的とする。	隔月 第二月曜日
循環器センター運営委員会	循環器医師、看護師、診療放射線技師、臨床工学技士	心臓カテーテル室は、様々な職種が関与し、カテーテル症例数が増えてきているため、多職種間との連携を目的とする。	第一水曜日 (年6回)
企画・広報委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、ソーシャルワーカー、事務職	医療環境の向上及び活動内容や情報を内外に広報し周知することを目的とする。	毎月定例 第二火曜日
業務改善委員会	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、事務職	業務改善の推進を通じて、病院運営の効率化と職員の意欲向上を図り、もって医療サービスの向上に資することを目的とする。	毎月定例 第二火曜日
研修委員会	医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、事務職	患者サービスの向上をめざして、病院の利用者（患者様、来院者）が満足できる医療サービスを受けていただけるように利用者の意見を調整して環境・職員接遇記述の改善・向上を行うことを目的とする。	随時
医療材料委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、栄養士、臨床工学技士、事務職、SPD 請負業者	医療材料等の選定について審議し、病院の運営に資することを目的とする。	奇数月 第三月曜日
安全衛生委員会	委員長は安全管理者又は衛生管理者の職にある者 医師、看護師、理学療法士、診療放射線技師、事務職	相模野病院の安全衛生規定に基づき、病院の安全衛生管理体制を明確にすることで、病院の業務遂行に関連して発生する労働災害および健康障害を防止するとともに、職員の安全確保と健康の保持増進を図ることを目的とする。	毎月定例 第四月曜日
透析機器安全管理委員会	専任医師、専任臨床工学技士、臨床工学技士、看護師	安全に透析療法を行うため、透析機器の保守を計画的に取り組み、透析液清浄化ガイドライン Ver2.01に基づき、透析液の清浄化に努め、安全で質の高い透析を提供することを目的とする。	毎月定例 最終水曜日
医療ガス安全委員会	医師、薬剤師、看護師、事務職、臨床工学技士、保守管理業者	高圧ガス取締法及びその他の法令等に基づき、医療ガス設備の安全管理に関する事、医療ガスに関する知識の普及及び啓発に関する事、その他医療ガスに関する必要な事項について審議・管理し、患者・職員等の安全を確保する事を目的とする。	毎年定例
医師看護師負担軽減委員会	医師、看護部長、事務部長、薬剤部長、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、管理栄養士、事務職、診療情報管理士、医師事務作業補助員	勤務医および看護師の負担軽減計画の策定と評価に関する事項を検討することを目的とする	年2回 (6月・2月)
特定行為研修研修実施病院管理委員会	医師、看護部長、副看護部長、看護師、事務職	保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令に基づき独立行政法人地域医療機能推進機構本部に設置された、特定行為研修委員会と連携を図り、研修実施病院における特定行為研修の安全と質の保証および向上を目指すことを目的とする。	偶数月

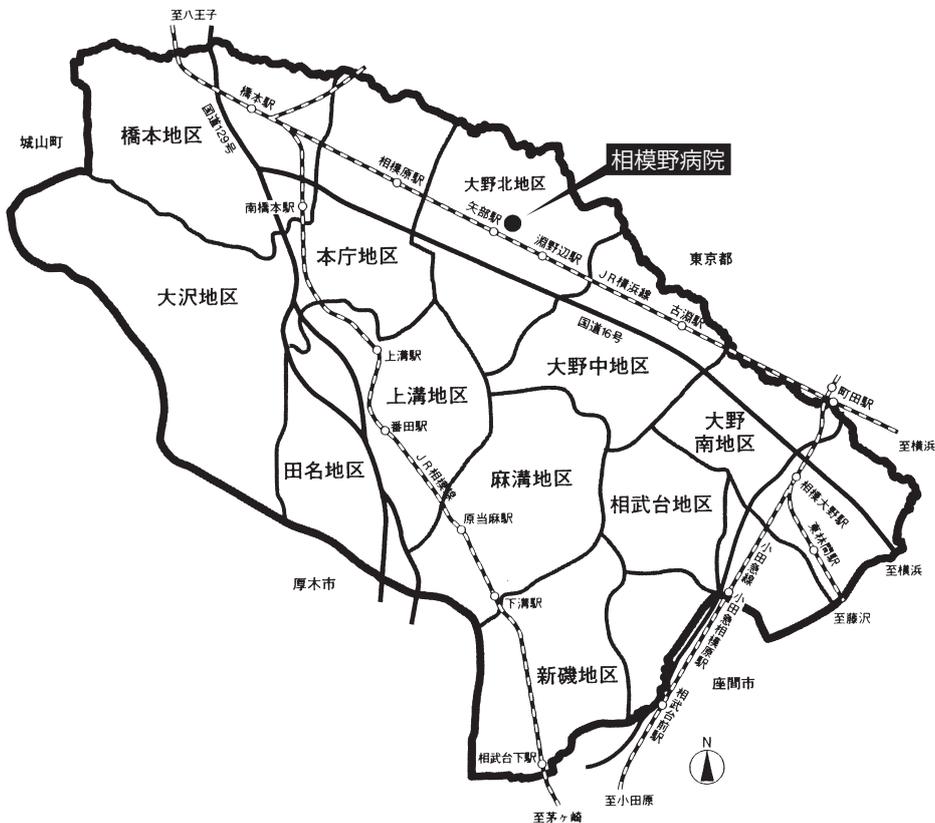
公衆衛生活動地域と相模原市における診療圏

公衆衛生活動地域

当院担当区域



相模原市における相模野病院診療圏



Ⅱ 医 事 統 計



医事統計

▶ 2022年度患者推移(入院・外来) ◀

入院	診療実日数		患者延数		1日平均患者数	
	当月 (A)	累計 (B)	(C)	累計 (D)	当該月 (C/A)	累計 (D/B)
4月	30	30	4,663	4,663	155.4	155.4
5月	31	61	4,898	9,561	158.0	156.7
6月	30	91	5,090	14,651	169.7	161.0
7月	31	122	5,091	19,742	164.2	161.8
8月	31	153	5,253	24,995	169.5	163.4
9月	30	183	4,924	29,919	164.1	163.5
10月	31	214	5,142	35,061	165.9	163.8
11月	30	244	4,601	39,662	153.4	162.5
12月	31	275	4,719	44,381	152.2	161.4
1月	31	306	4,675	49,056	150.8	160.3
2月	29	335	4,778	53,834	164.8	160.7
3月	31	366	4,702	58,536	151.7	159.9

外来	診療実日数		患者延数 (検診除く)		1日平均患者数	
	当月 (A)	累計 (B)	(C)	累計 (D)	当該月 (C/A)	累計 (D/B)
4月	20	20	10,382	10,382	519.1	519.1
5月	20	40	10,432	20,814	521.6	520.4
6月	22	62	11,225	32,039	510.2	516.8
7月	20	82	10,555	42,594	527.8	519.4
8月	22	104	10,842	53,436	492.8	513.8
9月	20	124	10,335	63,771	516.8	514.3
10月	21	145	11,085	74,856	527.9	516.2
11月	20	165	10,689	85,545	534.5	518.5
12月	20	185	10,710	96,255	535.5	520.3
1月	19	204	9,622	105,877	506.4	519.0
2月	19	223	9,904	115,781	521.3	519.2
3月	20	243	10,520	126,301	526.0	519.8

▶ 入 院 ◀

全科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	154.4	158.0	169.7	164.2	169.5	164.1	165.9	153.4	152.2	150.8	164.8	151.7	159.9

全科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	67,497	73,487	72,642	73,201	73,732	76,761	73,889	70,923	72,454	73,496	71,232	69,584	72,408

内科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	84.9	86.1	88.6	91.0	99.3	92.5	86.9	84.1	85.7	85.1	95.7	89.7	89.1

内科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	59,267	59,358	58,605	63,138	60,591	60,879	55,974	59,376	60,791	59,555	60,491	56,112	59,511

小児科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	8.7	11.6	12.6	12.2	8.9	16.0	16.1	9.1	13.4	10.4	7.4	11.2	11.5

小児科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	112,563	125,448	131,094	121,173	137,076	124,086	120,440	107,580	118,969	113,741	132,404	105,868	120,870

外科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	15.3	11.2	16.2	15.8	16.8	10.7	15.6	11.2	11.3	12.3	12.8	12.4	13.5

外科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	86,062	102,697	87,733	75,834	92,688	93,362	82,214	86,368	82,833	94,497	93,049	88,287	88,802

整形外科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	32.0	29.5	29.1	23.4	23.4	26.0	28.7	27.0	23.7	23.4	29.0	21.5	26.4

整形外科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	51,341	59,027	63,087	66,261	63,786	67,083	59,513	62,169	60,668	68,788	62,428	72,844	63,083

皮膚科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

皮膚科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

泌尿器科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	3.1	4.0	4.6	4.2	3.8	2.0	2.4	4.2	4.7	4.7	6.2	3.9	4.0

泌尿器科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	90,151	80,297	67,538	71,421	80,160	128,136	121,952	86,739	77,327	106,207	71,406	79,057	88,366

産婦人科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	8.3	12.6	15.4	14.6	14.3	13.9	13.2	14.8	11.5	12.6	10.8	10.7	12.7

産婦人科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	101,865	112,301	93,594	89,966	104,125	111,064	106,528	99,094	103,392	98,206	105,379	95,745	101,772

眼科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	1.6	2.4	2.3	2.1	1.5	2.1	2.1	2.1	1.3	1.7	2.0	1.7	1.9

眼科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	162,233	142,242	158,475	152,113	151,518	152,696	149,618	149,975	171,226	146,220	137,880	157,578	152,648

歯科 口腔外科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	0.5	0.7	0.9	0.8	1.4	1.0	0.9	0.8	0.6	0.6	0.8	0.5	0.8

歯科 口腔外科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	128,791	126,063	126,975	130,085	125,351	128,754	111,141	132,892	128,648	123,238	134,324	124,989	126,771

▶ 許可働病床数(212床)に対する利用率 ◀

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	72.8	74.5	80.0	77.5	79.9	77.4	78.2	72.3	72.3	71.6	78.2	71.5	75.5

◀ 外 来 ▶

全科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	519.1	521.6	510.2	527.8	492.8	516.8	527.9	534.5	535.5	506.4	521.3	526.0	520.0
検診等	30.5	34.1	38.1	33.6	33.2	38.5	40.2	41.7	31.8	35.5	39.7	39.5	36.4
合計	549.6	555.7	548.3	561.4	526.0	555.3	568.1	576.2	567.3	541.9	561.0	565.5	556.4

全科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	17,228	17,605	16,811	17,042	18,077	19,011	17,428	17,799	15,697	16,895	16,537	16,231	17,197

内科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	227.2	228.5	217.5	230.1	213.7	226.2	228.0	233.2	229.5	225.4	228.3	226.3	226.2

内科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	24,413	25,683	24,086	24,502	25,737	28,388	23,486	24,634	22,274	23,679	23,641	23,712	24,520

小児科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	18.3	22.8	30.3	29.9	28.8	27.2	30.6	32.1	34.3	25.9	25.6	28.2	27.8
検診等	1.9	1.2	2.0	1.5	2.1	1.8	2.0	2.5	2.1	1.7	1.8	1.6	1.9
合計	20.2	24.0	32.3	31.4	30.9	29.0	32.6	34.6	36.4	27.6	27.4	29.8	29.7

小児科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	13,758	11,675	10,186	10,847	13,142	15,582	14,728	16,594	4,175	4,388	4,443	4,495	10,334

外科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	48.3	45.7	43.9	44.6	41.5	44.3	45.0	45.4	46.8	41.8	43.3	44.6	44.6
検診等	3.5	4.6	6.6	4.3	5.0	7.0	8.4	9.3	4.9	6.4	8.8	10.9	6.6
合計	51.8	50.3	50.5	48.9	46.5	51.3	53.4	54.7	51.7	48.2	52.1	55.5	51.2

外科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	25,135	26,701	27,239	26,371	30,345	27,609	33,872	30,771	28,090	28,816	27,870	26,531	28,279

整形外科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	55.1	59.8	55.8	59.3	50.3	55.7	57.0	55.6	60.5	60.2	58.8	59.1	57.3

整形外科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	7,361	7,215	7,195	7,029	7,305	7,386	7,908	8,060	7,738	8,135	7,883	7,991	7,601

皮膚科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	17.4	18.2	15.1	20.8	21.3	25.6	20.0	18.3	21.9	19.9	22.3	23.4	20.4

皮膚科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	2,839	3,239	3,303	2,892	3,358	2,877	2,848	2,855	2,515	3,204	2,535	2,476	2,912

泌尿器科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	45.2	45.7	41.5	41.3	46.6	42.8	44.6	48.2	44.7	44.0	48.7	43.9	44.8

泌尿器科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	11,285	10,078	9,831	10,699	10,807	9,404	10,754	9,384	10,506	11,294	9,886	9,806	10,311

産婦人科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	38.3	32.4	38.3	37.3	35.0	37.0	37.7	35.9	37.0	33.8	35.9	38.0	36.4
検診等	25.1	28.4	29.3	27.8	26.1	29.7	29.7	30.0	24.8	27.5	29.1	27.1	27.9
合計	63.4	60.8	67.6	65.1	61.1	66.7	67.4	65.9	61.8	61.3	65.0	65.1	64.3

産婦人科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	11,044	10,319	11,443	10,719	9,930	10,441	10,034	10,333	10,149	11,823	11,182	10,258	10,640

眼科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	49.3	50.3	50.3	47.8	42.0	51.4	48.5	50.2	47.9	49.2	51.6	56.0	49.5

眼科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	6,467	6,521	6,561	6,757	6,527	6,353	6,342	6,374	6,249	6,223	6,748	6,411	6,461

歯科 腔外科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	30.7	28.3	26.5	29.4	29.1	25.9	28.9	26.7	26.2	18.8	20.7	20.7	26.0

歯科 腔外科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2023年度	8,361	8,784	8,954	8,601	8,891	8,260	8,100	8,597	7,732	9,813	9,004	9,063	8,680

Ⅲ 診 療 部 門



▶ 職員紹介 ◀

腎臓内科：酒井健史 永岡未来
 循環器内科：藤石珠美 大木卓巳 朝倉清史
 消化器内科：今泉弘 三枝陽一 金明哲 蓼原将良 野島彩希
 血液内科：石井隆司 江畑晃一 佐生貴洋
 呼吸器内科：今崎貴生 矢内原智子 山田薫梨

▶ 2023年度業務内容 ◀

1日平均入院患者数 約 89.1人（昨年約 78.7人） 1日平均外来受診者数 約 225人（昨年約 242人）

▶ 2023年度総括 ◀（詳細は各部門の年報参照）

新型コロナウイルスは5類への移行となり、ここ1-2年の目標だった新型コロナウイルス以外の疾患について対応を強化した。そうはいつても新型コロナウイルス患者さんも相当程度入院しており、残念ながら院内感染もおきるなかでなかなか大変な対応が必要だった。振り返ってみると入院業績はコロナ前の水準にV字回復したとあってよいと考えている。外来診療は病院/診療所の連携、役割分担を少しずつだが進めることができた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

入院診療をさらに強化したい。外来診療は一層の病院/診療所の連携、役割分担をすすめたい。また、内視鏡治療や外来化学療法などの外来特殊部門の診療をさらに進めていきたい。また、今年度は医師の働き方改革初年度であり、大きな混乱も危惧されている中、診療水準は確実に保っていきたい。最近では当院でも女性医師、男性医師問わず、医師の育児支援が課題になっている。働き方改革ともあいまって、小さな病院にとっては簡単にはいかないが、取り組んでいきたい。

呼吸器内科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医師：今崎貴生、矢内原智子、山田薫梨、矢那瀬信雄（健診センター所属）

非常勤医師：佐藤崇、猶木克彦（北里大学医学部 呼吸器内科）

▶ 2023年度業務内容 ◀

1日平均入院患者数 23.8人

気管支鏡 年間67件

▶ 2023年度総括 ◀

2023年度は常勤医が3名となり、今まで以上に積極的に患者さんを受け入れ、入院患者の維持、気管支鏡件数の増加につながった。

外来診療については、近位クリニックからの紹介が増えるように、依頼をできる限り受け入れるようにこころがけた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

常勤医の異動や交代があり、外来では非常勤医師増員予定。診療体制が変化するため、診療の質を落とすことなく、入院患者数・外来診療を維持していきたい。

循環器内科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医：栗原珠美（医長）日本循環器学会 循環器専門医、日本不整脈心電学会 不整脈専門医
日本内科学会 総合内科専門医

大木卓巳（医員）日本循環器学会 循環器専門医、日本内科学会 総合内科専門医

朝倉清史（医員）日本循環器学会 循環器専門医、日本内科学会 認定内科専門医

▶ 2023年度業務内容 ◀

心臓カテーテル検査件数：109 件

心血管インターベンション治療件数：30 件

ペースメーカー治療件数 13 件

▶ 2023年度総括 ◀

ガイドラインに準じて、カテーテル検査の適応について考慮したこともあり、カテーテル件数については、昨年度と比較して減少傾向となった。その一方、大学からの高齢心不全患者さんの受け入れ体制を整えつつ、受け入れを積極的に行っていった。

外来診療については、引き続き逆紹介を積極的にすすめ、近医クリニックからの紹介率が上がるような外来診療をこころがけた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

大学と病診連携をはかり、引き続き高齢心不全患者さんの受け入れを積極的に行っていく。またペースメーカー植込み後の患者さんについても、当院ペースメーカー外来で継続加療を行っていけるよう、体制を整えていく。

また引き続き近医クリニックからの紹介率の増加を目標に、地域と連携を図った質の高い医療を提供と、より診療体制を充実させていく。

血液内科

▶ 職員紹介 ◀

[常勤医師] 石井隆司、江畑晃一、佐生貴洋

[非常勤医師] 宮崎浩二、堀米佑一、鈴木隆浩教授（北里大学医学部・血液内科学）

▶ 2023年度業務内容 ◀

化学療法件数 入院：532件、外来：704件

骨髄穿刺件数：218件

入院患者数 月平均 25.6名

▶ 2023年度総括 ◀

2023年4月、長年診療を共にした片山卓爾医師が異動となった。北里大学病院より若手の医師派遣をいただき、常勤医3名の体制は維持された。入院患者数および外来化学療法の件数は、昨年同様の水準を維持することが出来た。2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症は5類に移行したものの、当科の診療においては依然として多大な影響が続いている。感染症と悪性疾患の治療に苦慮した1年であった。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

2024年も若手のスタッフの派遣をいただき、常勤医3名の体制は維持の予定である。造血器腫瘍の診療ガイドラインが改訂され、続々と新規薬剤が上梓され、疾患毎の治療も大きく様変わりしつつある。より適切な診療を提供できる体制を構築・維持していくことが本年度の目標である。また、相模原および周辺地域の血液内科の診療体制が拡充し、血液疾患の診療が可能な病院が増えてきた。大学病院を中心とした複数病院の役割分担を図りつつ、地域の診療充実度をあげるため、より緊密な病病連携・病診連携を構築することが今後の目標である。

小児科・新生児科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医：白井宏直（9月30日まで）中村龍太（10月1日より）西田尚史、横関祐一郎、今井純好

非常勤医：風張真由美（週1回外来、内分泌等）村松秀樹（週1回外来）
安藤寿（月1回循環器疾患等）当直医師として他数名

【NICU・GCU】

NICU：12床（NICU加算対象12床）、GCU：12床（GCU加算対象12床）の独立病棟。神奈川県周産期救急システムの県央・北相地域の中核病院（基幹病院：北里大学病院）であり、新生児専門医研修施設。本院出生新生児の対応はもちろんのこと北里大学病院NICUと連携を取りながら、地域の母子センター医療の一環としての役割をはたしている。2013年4月からのGCU増設により、他院からの受け入れもスムーズに行えるようになった。2014年度は人工呼吸管理患者が増加、管理も安全に行えるようになってきた。又先天性奇形を持つ長期入院患者のケアを行うことができ、無事施設へ転院させることができた。2015年10月からはGCU入院患者適応の拡大（B型肝炎母子感染予防、新生児ジストレス有児の経過観察など）実施。2018年9月からNICU加算対象病床数12床へ増加。

2023年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたが、院内における感染対策は継続して行い、感染妊婦や疑いのある妊婦から出生した新生児の入院も数名あった。

（入院実績）

	2021年度	2022年度	2023年度
入院総数	210	199	199
早産児	145	95	85
呼吸管理	64	67	75
院外出生児	41	50	48
backtransfer	26	26	15

主な疾患：双胎、早産低出生体重児、一過性多呼吸、RDS、特発性高ビリルビン血症、先天性心疾患、その他（頭蓋内出血、染色体異常、感染症）、新生児仮死、B型肝炎母子感染予防、基幹病院などからのbacktransferなど。新型コロナウイルス感染症流行以降北里大学病院以外のbacktransferは減少している。

【一般小児科病棟】

病棟は外科などの混合病棟に属している。2014年8月からの地域包括ケア病棟の新設により、小児科の入院患者は一部を除いて個室での管理となり個室料金・付き添い必要などから思うような入院治療は出来ていないのが現状である。また新型コロナ感染症持続の中、成人新型コロナ疑似症例が個室を利用することが多くなり、小児科での個室利用は難しかった。

【入院状況】

主な疾患：気管支喘息（喘息性気管支炎）、細気管支炎、痙攣性疾患（熱性痙攣など）、肺炎、敗血症疑い、尿路感染症、髄膜炎、急性胃腸炎・脱水、早産児、一過性多呼吸など

【外 来】

月曜日から金曜日まで午前是一般外来、午後は予約制で専門外来、予防接種、乳児健診を行っている。再診は予約制。2007年7月から午前外来3診体制を開始。2010年10月からは新棟外来に移り、恵まれた新しい環境の中で診療を行っていたが、2022年度は新型コロナウイルス感染症流行持続の影響で外来患者数は減少が持続した。2024年5月の新型コロナウイルス感染症の5類への移行後は溶連菌感染症などの感染症が増加、外来数も増加した。

予防接種：相模原市および近隣の市町村から委託を受けている定期予防接種、また自費の任意予防接種の実施。2013年度は四種混合ワクチン開始。2016年度からヒブ・肺炎球菌同時接種開始

慢性疾患：喘息性疾患、血液疾患などの慢性疾患の定期フォロー。

1ヵ月健診：主に本院出生児を対象。新生児聴覚スクリーニング二次検査など。

循環器：北里大学小児科の小児循環器専門医により月1回実施。

フォローアップ外来：主に本院NICU・GCU退院患者のフォローアップを行い成長を見守っている。

内分泌：独立した外来ではないが、風張医師により、低身長、肥満などの相談を実施。

RSウイルス感染予防のための治療：シナジス接種（4月～10月）他施設からの接種依頼も受け入れている。

<地域医療への協力>

- 1、乳幼児健診（相模原市、町田市、座間市からの委託）、乳幼児2次健診など
- 2、予防接種（相模原市、町田市）
- 3、相模原市救急医療の一環としての二次救急担当（月3-4回）
- 4、相模原市小児科医会への参加、症例検討会、講演など

乳 腺 外 科

▶ 職員紹介 ◀

林京子：日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺専門医・指導医、日本癌治療認定医機構認定医

藁谷美奈：日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺専門医・指導医、臨床遺伝専門医

日本癌治療認定医機構認定医

▶ 業務内容 ◀

乳腺外科は女性の乳腺専門・指導医である林、藁谷が担当し乳癌手術および化学療法、乳腺良性腫瘍手術を扱っている。臨床遺伝専門医でもある藁谷は遺伝カウンセリングも担当しBRCA 遺伝子検査を行っている。外科全体として相模原市乳がん検診には消化器外科の甲斐田武志医師、羽廣健仁医師や石井健一郎医師に協力を得ている。乳腺チームは週1回の術前カンファレンスで手術予定症例検討と今後の治療について話し合う時間を設けている。また病棟看護師とともに入院中の患者の状態 治療方針の確認を行っている。また月1回の乳腺症例検討で臨床検査技師、放射線技師、放射線科医と診断のブラッシュアップを行っている。

▶ 2023年度総括 ◀

2023年度の乳腺の手術件数は124件（前年度108件）と増加した。ホルモン陽性乳癌はCDK4/6阻害剤の登場により術後治療の幅が広がった。トリプルネガティブ乳癌は免疫チェックポイント阻害剤の適応拡大により治療の選択肢が増えた。Her2タイプも予後の悪い乳癌といわれていたがハーセプチンやパージェタの登場によりpCR（pathological Complete Response）が増え、さらにエンハーツの薬剤の登場により再発乳癌治療の幅が広がった。またlow Her2の概念が加わりエンハーツの適応が更に広がった。一方、免疫チェックポイント阻害剤の副作用である間質性肺炎や糖尿病、甲状腺機能異常 肝機能障害など専門外での管理が必要になり、これらを相談する内科医不足に頭を抱えている。新しい薬剤が出る度に化学療法のレジメンの見直しを、化学療法委員会委員長である藁谷医師は薬剤師と癌化学療法認定看護師と連携し円滑に進めている。遺伝カウンセリング、遺伝子検査も順調に件数を増し、術前のBRCA 検査の結果に応じて術式選択ができるようになった。

乳腺に関連する外来数が多いため消化器外科医らにも以下の協力を得ている。甲斐田医師と石井医師は市乳癌検診の視触診を、羽廣医師はマンモグラフィ読影医の資格を維持し読影も行っている。相模原市では日本乳癌学会の認定施設2施設のうちの1つが当院である。認定施設更新もあり日本乳癌学会では毎年発表している。当院の乳腺外科は初診から治療決定までのスピードと安全性を重視し治療を行っている。ガイドラインを熟知した上で、患者さん一人一人にあった治療方針を考え、迅速に提供している。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

2024年度は乳腺専門チーム2人は変わらない。2024年度も年間170件を目標としている。針生検数は250例/年（前年は200例）と多い。当院は研究会・学会にも積極的に参加し、最新の知識向上に努力し認定施設更新を継続していく。また、トリプルネガティブ乳癌やHer2タイプ乳癌の治療、low Her2患者に対するエンハーツの適応拡大など、患者さんに不利益のないように、大学と連携をとり、最新の治療方針を提供していく。

消化器外科

▶ 職員紹介 ◀

羽廣健仁 : 日本外科学会専門医

熊本浩志 : 日本外科学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医

日本内視鏡外科学会技術認定医 日本大腸肛門病学会専門医

日本消化器病学会消化器病専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ストーマ認定士

日本体育協会公認スポーツドクター

甲斐田武志 : 日本外科学会専門医 日本DMAT 隊員 JATEC プロバイダー

石井健一郎 : 日本外科学会専門医 身体障害者福祉法指定医 神奈川ヘルニア研究会世話人

▶ 業務内容 ◀

上記4名の常勤医が中心となり日常診療を進めている。一人常勤医が増えたことより昨年まで週に1～2回程度の北里大学病院外科やその他の施設あるいは当院健診センター医師などの非常勤医師派遣は廃止となった。肝胆膵疾患は主に石井、甲斐田医師が、上部消化管疾患は主に羽廣医師が、下部消化管疾患は主に熊本医師、甲斐田医師が中心となって診療にあたっている。そのほか鼠径部ヘルニアや急性虫垂炎・腸閉塞・腹膜炎をはじめとした緊急疾患は来院時の状況などにより主治医を決定し診療にあたっている。内科からの依頼が多いリンパ節生検や中心静脈ポート挿入なども行っている。治療の妥当性やより適切な治療法を検討するために消化器内科とは月に2回程度、そして科内では週1回の術前検討会、入院患者のチャートカンファレンス、リハビリカンファレンスを他職種（看護師、リハビリ職員）とともに行っている。また外来での乳がん検診や乳腺手術の支援なども行っている。また相模原市の外科二次救急診療においても、合わせて月4枠前後の二次救急診療に従事している。

▶ 2023年度総括 ◀

年間の消化器外科手術件数は全身麻酔症例 219 例、それ以外の手術症例は 34 例でありトータルでは 253 例であった。主な疾患は大腸癌 胃癌 胆石症 鼠径部ヘルニア 虫垂炎 などであった。

常勤医師は4名であるが月曜日から金曜日までの午前は毎日外来初診対応を行いつつ、火曜日、水曜日、金曜日には午前および午後に定時手術を行っていた。

診療内容では当科の特徴でもある鏡視下手術を幅広く行い、大腸や胆石治療、虫垂炎手術をはじめ脾臓摘出術や腹壁癒着ヘルニア、腸閉塞に対しても積極的に行った。また悪性疾患に対してはガイドラインに準じた診療を行った。虫垂炎に対しては診察時の状況を見極め、十分なインフォームドコンセントのうえ Interval appendectomy もひとつの選択肢とし施行している。また胆嚢炎に対する手術では高度な癒着が予想される症例に対しては消化器内科と連携し

ERCP 技術を用いた術前にドレナージチューブの挿入などにより術中造影を行い、また全摘出が困難な症例では安全性を重視した胆嚢全摘も行っている。

それらの結果、虫垂炎手術、胆嚢摘出術、大腸切除術では 95%以上の症例で腹腔鏡手術が可能であった。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

2023 年度にくらべて新型コロナウイルス感染症の蔓延状況がやや落ち着いた印象もあるが今だ外来患者、入院患者ともに発生例は散見される。そのため引き続き感染対策は十分に施したうえで外科治療を必要とする患者さんへの速やかな医療提供を行い、地域医療の平常化に貢献したいと考えている。

診療内容としてはこれまでと同様にガイドラインを重視した治療内容の決定を行い、手術も安全性、根治性、低侵襲性を実現できるよう一層の技術の向上、手技の定型化を各々が目指したいと考えている。2 - 3 名の非常勤医師の支援はなくなったが常勤医は一人増えたためそのマンパワーの増加を最大限生かしたいと考えている。その一つとして 2023 年 3 月より急性胆嚢炎患者に対する準緊急手術、早期手術も取り入れてはじめることが出来ている。また現在も北里大学病院からは大学病院外科では手術枠を確保することが困難な良性疾患（胆石、虫垂炎、ヘルニア）を中心に多くの患者さんを御紹介いただいているが今後はさらに近隣のクリニック、病院などともより深く連携するために地域連携を重視した当院の外科の特色なども研究会を通じて周知する取り組みも行っており、その当院の強みを生かして地域医療を担える外科としての役割を果たしていきたい。

整形外科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医

松久孝行（主任部長 リハビリテーション室長） 整形外科専門医 肩関節外科、
上肢・スポーツ整形外科

岡厚 整形外科専門医 股関節外科、一般整形外科

飯田裕太（4月～9月）、永坂玲央（10月～3月） 一般整形外科

非常勤医

高江洲真（木）

佐藤完、安部崇子、瀧澤美沙子、小野寺洋介、村山将也（月、火、水）

松木良介、ウエストファル結衣、内山駿治、瀬尾尚弥、土屋雄揮（月、金）

専門診 股関節診（1回 / 2か月） 中村正則 昭和大学整形外科客員教授

▶ 業務内容 ◀

外来診療では午前のみであるが1日約60人の診療を行った。手術は月曜日から金曜日まで毎日行っており、2023年度は435件の手術を行った。手術の内訳は、①人工股関節置換術40件、②人工膝関節置換術18件、③リバーstype人工肩関節置換術9件、④肩関節鏡視下手術16件、⑤大腿骨近位部骨折65件、⑥骨折その他311件

▶ 2023年度総括 ◀

2023年5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行しましたが、あまり影響はなかった。外来患者数は1日平均60人（前年度80人）、入院患者数は月平均26.4人（前年度25.3人）と増加がみられ、また手術件数454件（前年度432件）と増加した。松久医師は肩関節外科が専門であることから、肩関節鏡視下手術とリバーstype人工肩関節置換術、岡医師は股関節外科が専門であることから人工股関節置換術を中心に手術を行った。更に救急搬送や近隣の医療機関からの患者を積極的に受け入れることができた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

救急患者の受け入れ体制を強化し、救急車の受け入れ件数の更なる増加を目指します。また肩関節疾患、股関節疾患をはじめとする関節疾患や外傷に対して専門的な手術治療を行うことにより、紹介患者の増加を目指していきます。これまでと同様に大学病院や地域との連携を図り、質の高い安定した医療を提供していくことを目標とします。

産婦人科（周産期母子医療センター）

職員紹介

[常勤] 望月純子 産婦人科専門医・指導医 周産期（母体・胎児）専門医 臨床遺伝専門医
吉原一

石川隆三 産婦人科専門医

松澤晃代 産婦人科専門医・指導医 周産期（母胎・胎児）専門医

[研修医] 池之内英利華（2023/4/1～9/30）、後藤大（2023/10/1～2023/3/31）

[非常勤] 落合大吾、海野信也、関口和企、吉村嘉広、山崎優、五島裕之、五十畑 仁志

業務内容

神奈川県県央北相地区の地域周産期母子医療センターとして、小児科医と協働して合併症のある母体や妊娠28週以降の早産症例の母体搬送を受け入れた。受入率は75%であった。

母子センター外来は、A（ハイリスク/スクリーニング）外来、B（ローリスク）外来、初診・予約外のほか、出生前遺伝カウンセリング（羊水検査、NIPT）外来、超音波専門医による胎児超音波外来を開設し胎児疾患の診断をおこなった。

2023年度総括

[入院]

分娩児数	439（双胎14）
分娩母体数	425
帝王切開	118（27.7%）
母体搬送依頼	56
母体搬送受入	42（75%）
逆搬送	10

早産児	計65	出生児体重	
28～30w	6	1000g未満	0
31～33w	19	1000-1500g	6
34～36w	40	1500-2000g	26
		2000-2500g	47

[外来]

遺伝カウンセリング外来	66
NIPT検査実施	45
胎児超音波外来	164

2024年度目標・計画

全国的に出生数が減少する昨今、妊婦に選ばれる周産期母子医療センターをめざし、無痛分娩導入の準備をおこなう。

産婦人科（婦人科腫瘍センター）

▶ 職員紹介 ◀

常勤医 新井正秀

非常勤 上坊敏子、望月愛郎、大野勉、中村基寛

後期研修医 池ノ内英利華(4～9月)、後藤 大(10～3月)

▶ 業務内容 ◀

原則毎日外来を行っています。手術については良性疾患を中心に開腹手術、腹腔鏡手術、経膈的手術を行っています。

なお相模原市の日曜祝日の2次救急を月1～2回担当しています。

▶ 2023年度総括 ◀

手術件数（2023年1月から12月）は開腹手術45件（子宮全摘37件）、腹腔鏡手術51件（子宮全摘24件、卵巣手術27件）、膈式子宮全摘6件、子宮頸部円錐切除術31件、子宮鏡手術7件、その他16件の計156件でした。

傾向として開腹手術より腹腔鏡手術の件数が多くなってきました。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

全国的な分娩数減少の中、婦人科領域で少しでも産科領域のカバーをできればと考えております。もう少し腹腔鏡手術ができる環境を整えて、手術件数を増やす計画です。

腎臓内科/血液浄化センター

▶ 職員紹介 ◀

腎臓内科医師：酒井健史、永岡未来、青山東五、渡會梨紗子、鎌田美美

看護師：看護師長 覚張慕

森田美恵子、田中陽子、渡邊由美子、岡本弘美、森岡悠希

臨床工学技士：係長 折田祥吾

久保大一郎、住谷千宗、平川智子、薄葉新太郎、渡部紗己、高田海斗

▶ 業務内容 ◀

保存期慢性腎臓病患者さんの外来管理、かかりつけ医との病診連携、腎代替療法の説明と決定への支援

腎臓病患者さんの原因精査と必要に応じて高次医療機関への紹介と連携

当院での外来通院維持透析、透析導入患者さんの入院、外来維持透析患者さんの緊急入院。

また他の内科や外科、整形外科において検査・手術入院が必要な維持透析患者さんの透析管理を他の透析施設と連携を図り実施している。

透析ベッド数は最大 30 床で、月水金は午前、午後の 2 クール、火木土は午前の 1 クールで実施している。

2021 年度 透析件数：7,407 件（外来：6,764 件、入院：578 件）

2022 年度 透析件数：7,601 件（外来：7,093 件、入院：435 件）

2023 年度 透析件数：7,622 件（外来：6,802 件、入院：762 件）

血液吸着療法：58 件、持続緩徐血液浄化療法：0 件、腹水濾過濃縮再静注療法：0 件

透析導入患者数：11 名 他院よりの維持透析受け入れ件数：28 名

▶ 2023年度総括 ◀

腎代替療法の説明、決定を含めた包括的な保存期慢性腎臓病患者さんの外来管理を行い、必要に応じて腎生検が可能な高次医療機関への紹介を行った。

また、血液透析導入と外来と入院中の維持血液透析管理、透析患者さんの周術期管理を行った。前年度と同様、シャント観察とフットケアの評価も継続、定期的なケースカンファレンスを交え、患者さんの情報を多職種で共有、患者さんの病態、生活スタイル、家族・社会背景にあった透析治療、食事療法、患者指導を継続した。

新型コロナウイルスをはじめとする各種感染症の予防策として、時間差入室やマスク着用と手指消毒の徹底を継続、感染疑う患者さん、感染した患者さんを透析学会の基準に沿って隔離透析を行い、感染拡大の予防に努めた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

慢性腎臓病患者さんのかかりつけ医との病診連携を推進する。

引き続き重症化リスクの高い透析患者さんが新型コロナウイルスを初めとする感染症とならないよう、感染予防に努めるとともに、必要に応じた検査や隔離透析を行い感染対策に努める。

腎臓病患者さん、透析患者さんの高齢化が進んでおり、家族を交え腎代替療法の説明と決定支援を行う。透析療法も、多職種でのカンファレンスを交え、引き続き個々に合わせた透析療法を目指す。

▶ 職員紹介 ◀

常勤医 春日井絃子 高橋実希子（育児休暇） 井原茉那美（2023.9 まで） 久納舞子（2023.10 ～）

非常勤医 飯田嘉彦（2023.6 まで）（月曜午前外来） 横関祐佳子（2023.7 ～）（月曜午前外来）
龍井苑子（金曜外来） 池田哲也（未熟児網膜症診療）
庄司信行（緑内障外来・白内障手術） 清水公也（白内障手術）

▶ 業務内容 ◀

2023 年度は、医師の交代はあったものの 2 名体制での診療を維持することができた。外来診療は、午前は初診と再診外来、午後は完全予約制で外来、検査、処置を行った。NICU での未熟児網膜症診療は山王病院アイセンターの池田医師による専門的診察を行った。手術は主に白内障手術を火曜日午前と木曜日午後に行った。

隔月で北里大学病院眼科庄司教授による緑内障外来と白内障手術を行い、不定期で山王病院アイセンター長（前北里大学眼科教授）の清水公也先生による白内障手術も行った。

視能訓練士は常勤 2 名のうち 1 名が産休・育休のため、非常勤職員とともに眼科外来業務と健康管理センターで検査を行った。

▶ 2023年度総括 ◀

2023 年度は医師の交代はあったものの医師 2 名での体制で、大きな事故やトラブルもなく診療を行うことができた。白内障手術件数は 2022 年度と比較して微増した。視能訓練士の不足による検査件数減少のため、外来単価が低下は免れない状況であったが検査枠の見直しなどで診療への影響は最小限におさえることができた。院内勉強会やミーティングの機会は状況をみて行い、日々スタッフ間でのコミュニケーションをとることで、円滑で質の高い外来診療を行うことに努めた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

2024 年度は、白内障手術件数を増加させることを目標に、最大の合併症である術後眼内炎を起こさないように十分に留意しながら、満足度の高い手術治療を提供できるよう努めたい。外来に関しては、引き続き丁寧な説明を心がけていくとともに、予約枠混雑解消・待ち時間の短縮のために逆紹介についても検討しながら診療したい。北里大学眼科庄司教授による緑内障診療も継続し、今後も北里大学病院眼科との連携をより密にして、地域のニーズに答えられる、安全で質の高い医療を提供していきたいと考えている。

歯科口腔外科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医：医長 山下雅子、佐竹通子

非常勤医：野口忠秀

衛生士：山本玲、青島泰子

▶ 業務内容 ◀

新患者総数	1,527 人
紹介患者数	1,319 人
院内他科依頼数	88 件
全身麻酔手術件数	137 件
静脈内鎮静手術件数	3 件
周術期口腔機能管理 新患者数	174 件

▶ 2023年度総括 ◀

コロナ感染流行期前の体制に戻り、入院の全身麻酔手術症例の件数に制限がなくなり昨年度より手術件数を増加することができた。引き続き、大学病院からの手術応援医師の派遣も継続することができ、難易度の高い症例についても対応することができた。外来の処置である手術件数についても安定して保持することができた。急患の受け入れ、また昨年度より強化している逆紹介の徹底により、逆紹介率も上がった。地域医療と連携を取ることで患者数の増を維持することができた。一方で、歯科医のマンパワー不足があり診療予約が取りにくい状況となってしまった。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

2024年度は紹介患者の増加、全身麻酔での手術件数術の増加に努める。引き続き、逆紹介の向上を図り、院内の周術期口腔管理の拡大に努める。安定した歯科医の確保により診療の回転を向上させ、歯科医の専門性を生かした診療を新たに構築していきたい。引き続き、歯科医師と衛生士、看護師やコメディカルと情報を共有しながら安全な診療を行っていく。学会発表、論文投稿も積極的に行っていく研修施設としても充実させる。地域連携を図り、地域医療に貢献し、患者さんには安全でより良い医療サービスを提供していく。

泌尿器科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医 平井祥司 高田治子

非常勤医 入江啓（月曜日）田畑健一（火曜日）中村真利江（木曜日）勝又洋樹（金曜日）

▶ 業務内容 ◀

1ヶ月平均外来患者数	890人
1ヶ月平均入院患者数	24.1人
開腹手術	13件
腹腔鏡手術	17件
内視鏡手術	86件
前立腺生検	50件
成人の小手術	20件
内シャント造設術	2件

▶ 2023年度総括 ◀

入院患者 外来患者 手術件数ともにほぼ横ばいで推移している。開腹手術の数は減少したが腹腔鏡手術の件数は増えている。内視鏡での前立腺手術数が減少している。

化学療法を行った患者数はほぼ前年と同程度数。

膀胱癌の内視鏡手術において5-アミノレブリン酸を用いた光線力学診断の導入を試みたが、稟議が通らなかった。

引き続き小手術や内視鏡手術から開腹手術まで広い範囲を網羅することができた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

外来診療では泌尿器科としてのスペシャリティをスタッフ一同更に高めたいとの考えに変わりはない。昨年の計画にも記したが、外来の検査機器や検査台など老朽化が目立っているが作新できておらずこれを改めたい。前立腺肥大症の手術が減ったが、今期は前立腺の蒸散治療を新たに取り入れることで 従来 of 全身状態や抗凝固薬の服薬によって手術を諦めざるを得なかった症例にも適応を広げていきたい。

当科は北里大学泌尿器科からの派遣を受け診療体制を整えているため、大学病院の後方支援は引き続き充実させたい。

麻 醉 科

▶ 職員紹介 ◀

- 金澤正浩 (麻醉科専門医・指導医) 部長
藏重千絵 (麻醉科専門医・指導医) 副部長
行木香寿代 (麻醉科専門医・指導医) 医長
嶋尾淳子 (麻醉科専門医) 医長

▶ 業務内容 ◀

2023年度 麻醉科担当手術件数 1342件 (全手術件数 1955件)
うち全身麻酔件数 1298件 (硬膜外麻酔併用 262件)

▶ 2023年度総括 ◀

2023年度も北里大学麻醉科学教室からご支援をいただき、円滑な手術室運営と安全な麻酔管理を行うことができた。岡本教授並びに医局員の先生方に深く感謝申し上げます。

麻酔科担当手術件数と全身麻酔件数は2022年度よりも約50件増加した。また、一昨年度より開始した、麻酔科医・専任の看護師・薬剤師をメンバーとする術後疼痛管理チーム(APS)による対応件数も順調に増加し、約200件となった。APS施行により、以前にも増して術後疼痛への関与と対応が改善された。

手術室の機器として、超音波診断装置(新規)・生体情報モニター2台(更新)・筋弛緩モニター4台(新規)を購入していただいたことで、主に整形外科症例の術後疼痛が軽減され、また日本麻酔科学会の「安全な麻酔のモニター指針」を満たすことが可能となった。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

逐次、業務内容の見直しと改善をし、全身麻酔件数・術後疼痛管理チームによる該当症例の増加を目標とする。また適応がある患者さんには超音波ガイド下末梢神経ブロックを積極的に施行し、術後鎮痛のさらなる改善を図る。

引き続き安全な麻酔管理を行っていけるよう、診療各科の先生やコメディカルの方々とコミュニケーションをとり、協力しながら業務を行う。

消化器内科／内視鏡室

▶ 職員紹介 ◀

内視鏡室長：今泉弘
 消化器内科：三枝陽一、金明哲、蓼原将良、野島彩希
 呼吸器内科：今崎貴生、矢内原智子
 非常勤医師：三橋利温、奥脇興介、山嵯真希、入江文、和田拓也、渡辺真郁、升谷 寛
 看護師：7名
 臨床工学技師：2名、看護助手：3名

▶ 業務内容 ◀ (検査件数)

上部内視鏡：7845件、下部内視鏡：1483件、気管支鏡：67件、ERCP:155件
 PEG：13件、ESD：72件、ポリペク：686件、EUS：285件、緊急止血術50件

	月	火	水	木	金
G F	今泉・三枝 蓼原、渡辺	金・野島、蓼原	三橋・山嵯・今泉	三枝・入江・金 平井	金・山嵯・野島
C F	今泉・金・升谷	金・升谷、蓼原 奥脇	三橋・山嵯 三枝・蓼原	今泉・三枝・入江 金・奥脇、石崎、野島	和田・山嵯、石崎 野島
B F		今崎・矢内原			

▶ 2023年度総括 ◀

内視鏡室の多数の検査件数を行った。
 超音波内視鏡検査、穿刺吸引細胞診、胆膵内視鏡治療を積極的に行った。
 職域検診、相模原市胃癌健診、人間ドックの検診内視鏡検査を積極的に行った。
 相模原市消化器救急も担当しており上下部緊急内視鏡検査の検査も増加した。
 後期研修医の受け入れも行い教育活動を積極的に行った。
 NPO 法人 PEG ドクターズネットワークに摂食・嚥下・胃瘻増設指導医療機関に認定され嚥下内視鏡検査、胃瘻増設を行っている。
 炎症性腸疾患の白血球除去療法治療、生物学的製剤など新薬治療を積極的に行った。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

超音波内視鏡検査の導入、胆膵内視鏡検査、治療を積極的に行っていく。
 上部下部内視鏡的粘膜剥離術の治療件数を増やしていく。
 検診の内視鏡検査の更なる件数を増やしていく。
 新築の内視鏡室を軌道に乗せていく。
 本年度も学会発表、論文報告を行っていく。

外来化学療法室

委員会委員

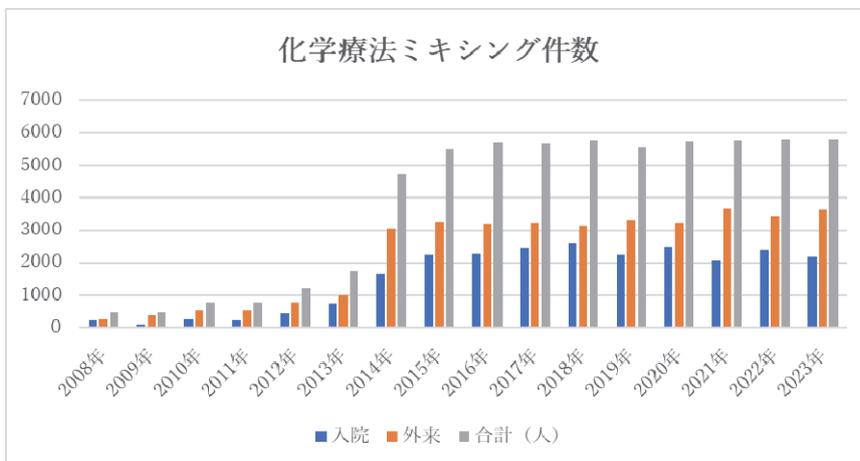
委員長：藁谷美奈（日本乳癌学会乳腺専門医、日本癌治療認定医機構認定医）

副委員長：田邊和生喜（薬剤部部長）

庶務：水野知子（薬剤部）

委員：石井隆司（血液内科専門医）、平井祥司（日本泌尿器科学会専門医）、石井健一郎（日本外科学会専門医）、新井正秀（婦人科腫瘍専門医）、今崎貴生（日本呼吸器学会専門医）、蓼原将良（日本消化器病学会専門医）、大嶋美加子（癌化学療法認定看護師）、覚張慕（外来看護師）、芦萱和美（病棟看護師）、岡村綾子（医事課代理）

2023年度総括



- ① 入院（青）、外来（赤）、合計（緑）のミキシングの数を上表に表す。2019年から始まったコロナ禍後も、化学療法は漸増しており5,800件程度を推移している。数年来課題となっていた外来化療枠の増設については、来年度に化療センター新設予定となった。ハードのみの拡充では十分ではないが、問題解消に向けて病院全体として具体的に動き出した。
- ② 化療センター新設にあたり運用方法も変更し、より効率化を図る予定である。化学療法センターIVNsによる点滴ルート確保が前提にあり、円滑な運営に向けて来年度には準備が整うよう看護部にも調整を依頼している。
- ③ 診療報酬改定に伴う加算変更などの対応、薬剤放棄事例による損失認識の共有等のため、前年度から事務も化療委員として参加することで、対応にスピード感が出た。
- ④ 「最新の治療を提供する」をモットーに、新レジメンは化学療法委員会全員で確認している。特に薬剤師が繊細かつ細心の注意を払ったレジメン作成に従事している。
- ⑤ 既存のレジメンでも、無駄なく安全に施行できるよう、要望に応じて審議し対応した。
- ⑥ 癌治療認定看護師による癌看護外来を開設して6年経過した。癌化学療法導入に際しての患者の理解の介助や、今後の治療に不安を抱いた時にその声をきき、アドバンスケアプランニングを行っている。

2024年度目標・計画

どのような状況でもそれぞれの学会が発信するガイドラインを熟知し、患者さんに不利益のないよう、医師、薬剤師や看護師と共に安全第一に治療が遂行できるよう、更に改善を図る。また、医療資源の無駄を極力減らして病院の利益にもつながるように努める。

IV 醫療技術部門



薬 剤 部

職員紹介

薬剤部長：田辺和生喜 副薬剤部長：佐野真由実 主任：北原みゆき、渡邊雅明
 薬 剤 師：水野知子、長島仁美（R5.4.19 育休復帰）、朝倉祐紀、山田尚枝（R4.9.29～産休・育休）、中村花、吉田美欧、徳留千江、石戸健太郎
 派遣薬剤師（産休・育休代替）：保泉有里（R3.5.10～）
 非常勤薬剤師：大阪尚代
 補助事務員：安藤沙織、田辺美悠

業務内容

月	薬剤管理指導業務		処方箋枚数		注射処方箋枚数		抗がん剤 ミキシング	院内製剤	医薬品 購入額	病棟薬剤 業務実施 加算 1	褥瘡対策 における 薬学的管理 計画作成	術後疼痛 管理チー ム加算
	人数	件数	入院	外来 (院内)	入院	外来	人数	件数	金額 (円)	件数	人数	件数
4月	321	380	2,735	392	3,913	1,130	328	13	97,290,899	689	176	9
5月	348	415	3,169	418	4,143	1,205	304	19	73,563,592	770	352	8
6月	353	433	3,234	422	4,519	1,237	282	20	86,086,383	762	593	20
7月	361	453	3,297	451	4,605	1,271	296	41	91,032,764	742	638	19
8月	349	456	3,430	456	4,611	1,380	388	15	106,317,442	829	762	23
9月	286	398	2,996	420	4,810	1,248	320	35	99,024,858	739	842	14
10月	363	444	3,139	395	4,440	1,306	310	7	93,701,092	774	971	14
11月	339	438	2,900	385	4,024	1,208	304	37	84,589,019	732	898	14
12月	296	424	3,045	362	4,313	1,173	318	12	80,830,527	668	792	20
1月	339	461	3,102	363	4,370	1,267	313	12	68,435,555	725	832	16
2月	311	426	3,136	424	4,158	1,143	280	12	71,964,442	735	831	15
3月	294	400	2,861	387	4,163	1,066	271	37	73,964,720	670	898	13
合計	3,960	5,128	37,044	4,875	52,069	14,634	3,714	260	1,026,801,293	8,835	8,585	185

2023年度総括

薬剤管理指導業務の実施人数および件数は前年度（3,489人、4,170件）よりも大幅に増加した。マンパワー不足の中、薬剤管理指導業務に対して病棟薬剤師が経験を積み重ね効率良く指導したことで、そして病棟薬剤師をフォローしている他のメンバーの業務への取り組み方の工夫と努力が増加した要因である。一方、医薬品等購入費は前年度分（10億6459万円）を下回っており、適正な在庫管理や後発医薬品への切替が進んでいる結果と考えている。

また、「褥瘡対策に関する診療計画書における薬学的管理に関する事項」作成業務、「術後疼痛管理チーム加算」業務、「二次性骨折予防継続管理料」業務にも参画し算定件数増に貢献できた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

新規発売の抗がん薬は一般的に薬価が高く、医薬品等購入費が増加する一因となっている。抗がん薬を含む高額な医薬品については、後発医薬品が発売され次第適応を確認しつつ切り替えを検討し、購入金額の減少に努めていきたい。また、有効期限切れ薬品が発生しないよう適切な在庫管理を行い、期限切迫医薬品についてはその一覧表を診療部へ提示し使用促進に向け協力を依頼していく。

薬剤部としては更なる業務の効率化を図り、病棟薬剤業務を充実させるとともにチーム医療に積極的に参画して患者さんに安心して安全な医療を提供できるよう努めていきたい。

臨床検査部

職員紹介

部長：羽廣健仁 技師長：近江亜矢子
 主任：高橋深雪 小林芳宏 高橋典子 久高真澄
 技師：石田麻里 宮尾舞 金子恵美 濱谷正孝 中村杏奈 徳江実咲
 正木恵 秋田朝美 竹内敢楠 平本佳菜子 古家伊織 高内美雅
 非常勤技師：村上裕美子 赤妻禎子
 招聘検査技師：風間日出子 金沢富紀 関谷美恵 豊島和子 石塚真由美 西原由美
 藤井悦子 奥脇繁子 早坂尚子 宮澤由美 佐々木雅子 清水裕翔
 篠田典明

業務内容

2023年度 実績	診療部門		健診部門		
	検査部	外部委託	検査部	外部委託	
尿 検 査	22,084	448	57,256	3,577	
糞 便 検 査	357	0	61,805	0	
血 液 検 査	151,982	1,099	63,903	0	
生 化 学 検 査	841,204	10,111	629,041	5,585	
免疫血清検査	76,590	16,035	30,784	2,945	
穿 刺 液 検 査	251	34	0	0	
細 菌 検 査	14	10,820	0	29	
病理組織検査	0	4,487	0	621	
細胞診検査	0	5,486	0	4,662	
生理検査	心 電 図	6,931	0	45,846	0
	超 音 波	6,821	0	14,656	0
	そ の 他	3,915	0	41,782	0
計	1,013,837	48,520	945,073	17,419	
合 計	1,062,357		962,492		

2023年度総括

- ・FMS方式の契約更新に向けて機器選定を行い、効率化のできる機種を提案した。
- ・FMS方式契約決定後は、共同事業者のBMLと連携をとり2024年度からの稼働に向けて体制の構築を行った。
- ・検査総数の前年対比は診療部門100%、健診部門103%であった。
 検体検査：診療部門で104% 健診部門は101%と昨年から微増であった。
 生理検査：診療部門でやや減少傾向（93%）であった。心電図検査（90%）超音波検査（91%）の減少が目立った。健診部門は今年度より、肺機能検査を開始したため118%と昨年より増加した。
- ・産休育休：1名

2024年度目標・計画

- 検査業務の啓発：検査についての知識の共有化を図る。
- 検査技術の維持・向上：担当部署内知識・技術の更新。
- 検査部門の業績向上：現状把握と働きかけ。

放射線部

▶ 職員紹介 ◀

部長：山根拓郎	技師長：鈴木達弥	副技師長：鳴澤勝行
主任：須貝貴志	主任：喜田裕憲	主任：阿部菜穂子
技師：石渡雄二	技師：川瀬実菜子	技師：小原貴喜
技師：恩蔵舞子	技師：折原あゆみ	技師：木村圭吾
技師：徳村有華	技師：尾西宏紀	技師：吉田聖良
技師：八木沢燦	技師：瀬戸優汰	招聘技師：丹治あゆみ
招聘技師：成田由樹子	招聘技師：村上空織	受付事務：佐藤幸子

▶ 業務内容 ◀

診療部門は院内全科に携わり、一般撮影・透視検査・CT・MRI・マンモグラフィ・心臓カテーテル検査および治療・骨密度測定検査・歯科口腔外科撮影・ポータブル撮影・術中透視および撮影等を行っています。

健診部門は院内の健康管理センターおよび院外の巡回健診の業務に携わっています。院内外ともに胸部撮影と胃部透視検査を行い、院内ではマンモグラフィおよび注腸検査も行っています。

PACS（医療用画像保存通信システム）による画像配信システムが確立され、すべての画像がデジタル保存されています。また、各種認定資格取得技師（検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師、胃がん検診専門技師、放射線管理士、放射線機器管理士、医療画像情報精度管理士など）も多数在籍しています。

《2023年度取得認定資格および取得者》

『医療画像情報精度管理士』：川瀬 実菜子、小原 貴喜（更新）

『放射線管理士』：小原 貴喜（更新）

『放射線機器管理士』：吉田 聖良（新規）、小原 貴喜、恩蔵 舞子（更新）

『検診マンモグラフィ撮影技術認定』：阿部 菜穂子（更新）

『X線CT認定技師』：恩蔵 舞子（新規）

『ピンクリボンアドバイザー（中級）』：折原 あゆみ（昇格）

▶ 2023年度総括 ◀

診療部門の撮影および検査件数は2019年度までは毎年10%前後の増加傾向にありました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響を最大に受けた2020年度は、診療部門では前年度と同数程度、健診部門では前年度を大きく下回ってしまいました。その後2022年度に入っても新型コロナウイルス感染症は引き続き収束する様子がないままでしたが、2022年度以降、2023年度（5月8日に5類感染症へ移行）も診療部門および健診部門ともにコロナ前と同程度までは回復することができています。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による経営状況悪化からの更なる回復（コロナ前を上回る撮影および検査件数の確保）
- ・積極的な研修会参加および各種認定資格の取得による検査および画像等の質の担保

リハビリテーション室

▶ 職員紹介 ◀

リハビリテーション室長：松久孝行

理学療法士長：上内哲男

副理学療法士長：葦澤香菜子

主任理学療法士：欠員

理学療法士：中島裕樹 安藤直樹 小川絵美 坂詰俊雄 田中智子 吉富桃子

作業療法士：遠峯綾子

助手：小野純子 家村鈴子

▶ 業務内容 ◀

	2023 年度	2022 年度	前年度比
総単位数 (単位)	24,450	25,251	96.8%
入院	19,339	20,329	95.1%
外来	5,111	4,922	103.8%
出来高総額 (円)	42,553,850	41,654,810	102.1%
入院	33,105,770	31,852,540	103.9%
外来	9,448,080	9,802,270	96.4%
包括病棟平均実施単位	2.07	2.06	100.5%

施設基準

運動器リハビリテーション料 (I)、呼吸器リハビリテーション料 (I)、脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)、廃用症候群リハビリテーション料 (II)、がん患者リハビリテーション料

▶ 2023年度総括 ◀

2023 年度の実績は 2022 年度と比較すると、総単位数は下回ることになりましたが、育児休暇取得による欠員や新卒入職者 2 名であったことから十分な単位の算定が出来ていなかったと考えます。しかし、出来高総額においては上回る事ができ、入院の出来高額の向上がみられることから加算や指導料の算定が結果につながったと考えます。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

1. スタッフ個々の医療技術のアップデート：学会、研修会、勉強会等への参加をさらに促進し、個々のレベルアップを図る
2. 業務実績の向上：セラピスト 1 人当たりの平均取得単位数を向上させる

視能訓練士

職員紹介

石川美和子 視能訓練士健診主任
 立花美穂 視能訓練士外来主任
 馬場育子 嘱託検査担当

業務内容

眼科外来検査：視力検査、屈折検査、眼圧検査、角膜曲率半径検査、角膜内皮検査、眼筋機能検査、両眼視機能検査、色覚検査、視野検査、眼底カメラ、眼軸長検査、OCT（光干渉断層計）、フリッカー検査 他
 健診センター：視力検査、眼圧検査、眼底カメラ、色覚検査、調節検査 他

○ 2023 年度検査実績

・眼科外来

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視力	629	701	746	655	607	686	703	674	655	652	642	752	8,102
眼圧	512	611	644	542	519	587	593	571	561	535	549	634	6,858
屈折	145	128	158	114	104	122	123	112	105	105	121	189	1,526
屈折（散瞳後）	1	0	1	1	2	0	1	0	1	2	0	0	9
眼鏡	1	0	1	0	4	0	0	0	0	2	0	2	10
近方視力	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	0	0	7
角膜曲率	205	242	267	214	202	231	232	223	219	212	213	264	2,724
角膜内皮	46	53	45	47	51	48	54	54	53	57	32	50	590
精密視野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼筋機能	32	35	26	32	25	31	36	32	29	37	17	28	360
両眼視	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
色覚	0	2	0	2	2	1	0	0	0	1	0	0	8
視野（GP）	25	22	24	16	15	10	22	26	13	19	8	12	212
視野（HFA）	122	128	164	129	145	115	139	118	132	108	125	111	1,536
眼底カメラ	10	6	9	7	9	13	10	13	12	13	13	15	130
IOLマスター	26	26	21	20	23	24	31	26	26	31	11	25	290
フリッカー	5	3	1	3	1	1	0	1	3	1	3	3	25
ヘス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
パキ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
Aモード	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
OCT	276	294	324	264	273	260	274	291	270	215	249	259	3,249
合計	2,036	2,251	2,432	2,047	1,982	2,130	2,219	2,145	2,082	1,992	1,983	2,344	25,643

・健診センター

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視力	1,397	1,457	1,846	1,743	1,789	1,745	1,849	1,711	1,643	1,422	1,351	1,709	19,662
眼圧	346	392	665	611	624	658	733	647	654	524	491	629	6,974
眼底カメラ	655	702	872	762	865	862	962	928	907	791	810	846	9,962
色覚	16	15	8	5	19	9	0	2	1	0	3	10	88
近方視力	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
両眼視力	0	0	0	0	19	7	0	0	0	0	0	0	26
調節	2	1	3	0	0	1	1	3	0	0	0	0	11
合計	2,416	2,567	3,394	3,121	3,317	3,282	3,545	3,291	3,205	2,737	2,655	3,194	36,724

▶ 2023年度総括 ◀

常勤が一人産休育休で今年度一年間一人体勢となり、午前中の健診センターの検査を、臨床検査技師と看護師にお願いし、健診センターの事務にもご協力いただきました。

外来眼科検査件数が増加し、嘱託職員の勤務日数が増加しました。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

医師が定着して、外来検査がますます増加しています。育休職員が復帰予定なので、今まで以上に滞りなく検査を進めていきたいと思えます。

栄養管理室

職員紹介

栄養管理室長：三枝陽一

副栄養管理室長：林康子

管理栄養士：安保敏明 谷本和巳

(株)グリーンヘルスケアサービス 所長：太田亜美

管理栄養士：2名 栄養士：6名 盛付・洗浄パート：17名

業務内容

		R5年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	R4年度平均	R3年度平均
一般食	食数	5,589	6,432	6,966	6,879	7,389	6,540	6,300	6,537	6,827	6,314	6,925	6,845	79,543	6,629	5,906	6,265
	構成比(%)	51.4	55.6	56.7	56.3	57.2	57.8	53.5	60.6	61.0	58.3	57.6	59.3	-	57.1	54.8	58.7
特別食	食数	4,862	4,424	4,689	4,715	4,778	4,003	4,643	3,473	3,711	3,834	4,501	4,090	51,723	4,310	4,179	3,704
	構成比(%)	44.7	38.2	38.2	38.6	37.0	35.3	39.5	32.2	33.1	35.4	37.5	35.5	-	37.1	38.8	34.7
分娩食	食数	417	717	630	629	760	781	829	776	663	689	593	597	8,081	673	692	704
	構成比(%)	3.9	6.2	5.1	5.1	5.8	6.9	7.0	7.2	5.9	6.3	4.9	5.2	-	5.8	6.4	6.6
計		10,868	11,573	12,285	12,223	12,927	11,324	11,772	10,786	11,201	10,837	12,019	11,532	139,347	11,612	10,777	10,673
祝膳	食数	22	40	34	36	39	40	41	39	33	34	31	30	419	35	39	39
ドック食	食数	316	380	609	574	553	601	645	632	604	480	460	585	6,439	537	538	510
栄養指導 件数	入院	73	48	48	73	59	57	69	58	63	40	50	44	682	57	64	43
	外来	28	32	30	25	31	22	22	29	24	27	23	25	318	26	29	46
計		101	80	78	98	90	79	91	87	87	67	73	69	1,000	83	93	89
管理栄養士1人当たり件数		33.0	26.7	26.0	31.3	29.0	26.3	29.3	28.3	28.3	21.7	24.7	22.3	-	27.2	30.2	29.0
内科	入院	64	40	40	52	41	45	46	47	42	26	37	28	508	42	52	37
	外来	24	24	26	22	23	20	21	24	23	22	21	21	271	23	26	41
外科	入院	3	2	1	14	10	9	13	7	9	7	8	10	93	8	7	6
	外来	3	2	3	3	0	0	0	3	1	2	0	1	18	1	1	2
整形外科	入院	6	5	7	5	8	3	8	3	5	3	4	3	60	5	4	0
	外来	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
泌尿器科	入院	0	1	0	2	0	0	2	1	7	3	1	3	20	2	1	0
	外来	1	3	0	0	2	2	0	1	0	1	1	1	12	1	1	1
産科・婦人科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
	外来	0	2	1	0	4	0	1	1	0	2	1	1	13	1	1	2
小児科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0
入院栄養指導【初回】算定率(%)		26.9	17.3	18.2	27.0	22.2	26.1	28.2	27.9	32.2	19.7	22.5	23.2	-	24.3	-	-
入院栄養指導【2回目】算定率(%)		4.9	5.6	5.3	5.6	0.7	3.6	4.6	3.1	4.8	3.5	4.3	2.8	-	4.1	-	-
栄養管理 計画書	作成件数	367	430	393	404	426	341	403	382	332	381	354	329	4,542	379	386	366
NST	算定	5	4	5	3	5	4	4	6	2	2	7	6	53	4	4	8
	非算定	3	1	1	3	2	0	1	0	0	4	0	0	15	1	2	-

2023年度総括

- ・分娩食のお祝い膳の見直しを行ったことで、満足度は昨年度の77%から91%に上昇した。
- ・特定給食施設等管理者及び担当者講習会(オンライン形式)に参加し、「給食施設の衛生管理について」・「給食施設におけるSDGsへの取り組みについて」学んだ。
- ・委託給食会社と月1回の委託調整会議を実施し、患者給食の改善に努めた。

2024年度目標・計画

- ・年2回の食事アンケートの実施により献立の改善に繋げ、月1回以上の行事食へ反映させる。
- ・入院及び外来栄養指導件数の増加に向けて、医師へのアナウンスを強化する。
- ・NST算定件数の増加に向けて多職種連携をはかる。

ME室（臨床工学室）

職員紹介

室長 酒井健史

臨床工学技士

係長 折田 祥悟

技士 久保大一郎、住谷千宗、薄葉新太郎、平川智子、渡部紗己、高田海斗

業務内容

2023年度 臨床工学室 業務件数

業務内容	機器	点検内容	合計	業務内容	機器	点検内容	合計
血液浄化業務	人工透析		7569	人工呼吸器業務	VELA・C2	使用中点検	104
	血漿交換療法		0			終業時点検	13
	血液吸着療法		68			回路交換	1
	持続的緩除式血液浄化療法		0		S L E 2000	使用中点検	66
	透析機器定期点検		60			終業時点検	25
	透析患者監視装置	日常点検	7569		S i p a p	使用中点検	183
	水処理装置	日常点検	313			終業時点検	79
	供給装置	日常点検	313			ME機器管理業務	輸液ポンプ
心臓カテーテル検査業務	診断		105	シリンジポンプ	終業時点検		745
	治療		30	除細動器	日常点検		1464
	PM埋め込み		16		定期点検		6
	緊急		0	A E D	日常点検		732
閉鎖式保育器業務	使用中点検		1604	経皮ガスモニタ	定期点検		24
	終業時点検		189	腹水濃縮業務		0	
上部内視鏡総件数		7845	ERCP			155	
下部内視鏡総件数		1483	気管支内視鏡総件数			67	
麻酔器日常点検		1220	腹腔鏡 始業・使用中点検			374	

▶ 2023年度総括 ◀

臨床工学技士7名体制で、血液浄化業務・心臓カテーテル業務・人工呼吸器業務・ME機器管理業務・閉鎖式保育器業務・内視鏡業務・手術室腹腔鏡業務・ペースメーカー業務を努めました。血液浄化センターでは、帳票の確認項目を明確にし、改善することができました。COVID-19陽性患者（疑い含む）の病棟透析を行い、外来患者入室時の混雑を避けるため、時差入室を継続しました。病棟でのメーカーが行う医療ガス点検に立ち会い、看護師の負担軽減に貢献しました。

循環器関連業務としては、メーカー同行のもとPMチェックを積極的に行いました。

内視鏡業務では、上・下部内視鏡、気管支鏡、胆、膵内視鏡などすべての検査治療にチーム医療の一員として参画するとともに、時間外における緊急内視鏡にもすべて対応し、内視鏡チームの円滑な運営に貢献しました。手術室業務では、除細動器や麻酔器の点検の他に内視鏡機器を使用する手術で機器操作を行いました。北里大学の血液浄化療法の臨床実習も9年目となり、学生の体調管理の確認や感染予防対策を行い、6名を受け入れ、無事実習を終えることができました。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

血液浄化センターでは、昨年度からの目標を継続して、患者監視装置のメンテナンスに力を入れていきます。また、エコー下穿刺の教育を行います。ペースメーカー業務では、PM外来を行えるよう他職種と協力して対応したいと思います。内視鏡室の拡張の準備と、スタッフの教育活動にも力を入れていきたい。

V 看 護 部 門



▶ 職員紹介 ◀

看護師長：浦部裕子

副看護師長：今井純子

看護職員：28名 看護助手：3名 夜勤専従看護師：3名

▶ 業務内容 ◀

各外来における外来受診者の診察介助及び検査・処置の実施と介助、救急搬送患者対応や外来輸血、各種検診、在宅療養支援などを行っている。検査・治療部門と協働し、夜間休日における二次救急に対応している。

2023年度 外来輸血件数：1228件

▶ 2023年度総括 ◀

前年度、外来受診者が急変する事例が例年より多く発生したことを受けて、急変時対応の強化を今年度の目標として部署で取り組んだ。患者急変時の役割分担、救急薬品・救急カートの使い方、記録などについての理解と意識を高めることができた1年となった。その他、退院後に外来通院する患者への継続看護についても取り組みを強化し、患者の在宅療養支援を支えるために病棟と外来がどのように連携していくかを考えることができた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

部署の垣根を越えた院内全体での急変対応の強化

外来看護の質の向上と充実

手術室・中央材料室

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：豊家亜矢 副看護師長：平口正則、川井眞純 常勤看護師 11 名

▶ 2023年度業務内容 ◀

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外科	29	28	36	33	44	26	30	31	27	34	33	31	382
整形外科	33	36	41	38	38	45	39	34	37	38	39	36	454
婦人科	15	10	11	16	21	14	18	16	10	13	14	12	170
産科	6	12	9	10	13	15	6	14	16	11	9	7	128
泌尿器科	12	13	14	18	11	11	21	18	12	21	18	11	180
口腔外科	7	11	12	12	21	14	11	14	9	9	11	9	140
眼科	37	47	52	48	35	45	48	44	31	37	37	40	501
合計	139	157	175	175	183	170	173	171	142	163	161	146	1955
全身麻酔合計	87	97	111	113	132	108	110	115	98	105	111	111	1298

- ・手術優先枠に基づく手術室の運営と調整（予定手術の実施・緊急手術の受け入れと実施など）
- ・手術看護の実践と質の向上への取り組み（術前訪問の実施・情報の共有・勉強会の開催など）

▶ 2023年度総括 ◀

手術件数は2022年度の1888件から1955件に増加（103.5%）。全身麻酔は月平均108.1件で、病院目標である90件/月以上を達成できた。緊急手術は手術件数の5.4%で昨年度の7.3%から1.9%減となった。各診療科の代表医師が参加する手術室運営委員会は隔月に開催し、問題解決に努めた。高齢者やハイリスクな患者が増える中、多職種の情報共有が重要となっている。そのため、2023年度は術前訪問率の向上を目標に掲げたが、38.9%で2022年度より6.7%増加しただけだった。今後、病棟と連携し、手術を受ける患者の術前から術後までを継続看護していくための検討が必要と考える。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

手術室看護師の役割を明確化することと後進育成が課題である。そのため、術前訪問記録の統一と看護計画の作成をし、病棟と共有できるようにする。また、看護手順を引き続き作成し、教育への活用と看護の質の確保を行う。さらに、手術室を効率的に運用するために、人員配置と物品管理を見直す。以上によって、患者さんにとってより安全で安心な看護を提供していきたい。

3 A 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：杉崎香恵

副看護師長：田村瑞枝、西村梓、星身和子

主任看護師：吉田恵巳

看護職員：助産師 15 名、看護師 9 名、嘱託助産師 2 名、看護助手 4 名

▶ 業務内容 ◀

許可病床：38 床

診療科：産科、婦人科、内科、外科、整形外科、口腔外科、眼科（女性混合病棟）

実績：分娩取り扱い件数 439 件（うち帝王切開 118 件、双胎分娩 14 件、早産 68 件）

コロナ陽性妊婦受け入れ：4 件（経膈分娩）

母体搬送 56 件 産後ケア入院 67 件

逆搬送 10 件

▶ 2023年度総括 ◀

分娩件数は前年度より 30 件低下したが、相模原市全体の出生数も低下し続けていて、少子化の煽りが強く出ている。コロナ陽性妊婦の受け入れも継続し、経膈分娩 4 件実施。感染対策も継続して実施。面会開始に伴い、立ち会い分娩も再開した。病院からの発信をホームページだけではなく、産科独自で“Baby プラス”とゆうアプリも導入し、両親学級が出来ない分、分娩の心構え、夫の役割、分娩進行など、教育目的の動画の配信や、母子センターからのお知らせなど、配信した。お昼寝アートのサービスも継続して実施。患者や患者家族から好評であり、継続している。他院分娩の産後ケア入院の受け入れも開始した。問い合わせが多く、前年度の倍の入院を受けることが出来た。メンタルや体力回復のため、サービス内容を変化させながら、産後のママ達の支援につなぐことができたと考える。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

- ① 入院患者受け入れの増員、病床稼働率 80% 以上
- ② 産後ケア入院の拡大（訪問型産後ケアの検討）
- ③ 働きやすい職場環境（業務整理の実施）

以上の目標を掲げ、赤ちゃんから高齢者まで、幅広い年齢層の全ての患者さんのニーズを捉えた看護を展開し、女性のライフステージを支え、安全で質の高い看護の提供を目指します。産後ママの頼れる病棟になれるように、産後ケア内容の充実を図り、ニーズと期待に応えられるように、知識と技術の向上に努めます。

スタッフ 1 人 1 人を大切に、1 人 1 人が役割発揮し、問題提起と解決ができるように、心理的安全性の高い病棟を目指します。

4 A 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：小林由紀子 副看護師長：横山愛
主任看護師：豊亮一郎
常勤看護師：22名 非常勤看護師：3名 看護助手：6名(うち夜勤専従2名・障害者雇用1名)

▶ 業務内容 ◀

入院診療科：内科 864件(97.4%) 泌尿器科 14件(1.58%)
他科(整形外科、外科、口腔外科) 12件(1.35%)
許可病床：39床(HCU5床・陰圧室5床)
看護基準：7:1
予約入院：323名 緊急入院：554名 コロナ受け入れ：44名
平均病床稼働率：86.9% 平均在院日数：11.9%

▶ 2023年度総括 ◀

重症患者や緊急入院を受け入れる病棟であり、また2020年よりコロナ対応病棟として稼働してきたため、コロナ患者の受け入れを積極的に行いこれら自部署の使命のもと、この1年も取り組んできました。また、入院患者数のうち62.5%は緊急入院で、他院や地域連携からの緊急入院の要請も受けてきました。入院患者65歳以上の患者割合は81.4%と高く、高齢患者に対する治療も増えています。また、内科入院のうち循環器内科は33.2%、特に消化器内科は34.6%と昨年度より増加しています。専門的知識向上のため積極的に勉強会を実施し、看護実践能力の向上に努めるだけでなく、退院調整の勉強会やカンファレンスを通し、疾患を抱えながらも住み慣れた場所でどのように過ごすことができるか考え、患者さんや家族と向き合ってきました。さらに、コロナ患者の感染対策でも「うつらない・うつさない」をモットーに継続的な感染防止対策を徹底してきた1年でありました。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

1. 地域のニーズに合った効率的な病床管理
2. 特性を活かした教育環境
3. 危機管理能力の向上

地域のニーズに合った効率的な病床管理による病床利用率の増加と退院調整による在院日数の短縮により、緊急入院を常時受け入れられるよう体制を整えていきます。また、患者さんが安心して退院後の生活を送ることができるよう退院指導に力を入れることと、高齢化社会に対して急性期における認知症患者の対応能力や終末期の患者ケアに対する学習の充実を図ることで、安全で安楽な療養生活を送ることができるよう取り組んでいきます。

4 B 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：芦萱和美

副看護師長：阪東美雪

看護師：28名

看護助手：4名

▶ 業務内容 ◀

許可病床数：38床（無菌室8床・陰圧室2床を含む）

看護基準：7：1

入院診療科：内科（主に呼吸器、血液内科を中心とする）

平均病床利用率：85.2% 平均病床稼働率：88.9% 平均在院日数：13.6日

平均看護必要度：41.0%

予約入院数：423名 緊急入院数：389名 化学療法件数（延べ）：1061件

輸血件数：1253件

▶ 2023年度総括 ◀

これまで同様血液内科、呼吸器内科を中心として、消化器内科、乳腺外科、消化器外科、泌尿器科など院内の化学療法患者の受け入れに力を入れてきました。およそ3割が卒後3年以下の経験の浅いスタッフであり、心理的安全性が保てるようこれまでの業務改善を活かしながら指導・教育行っています。患者さんの治療完遂できるよう身体的ケアや精神的サポート、家族ケアにも力を入れ、日々看護を実践しています。また、終末期に移行する患者さんも多く、当院訪問看護ステーションや退院調整看護師との連携を図りながら、終末期の患者さんがその人らしく望む生活が送れるよう一人一人と向き合い寄り添ってきました。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

1. 健全経営への貢献
2. 安全な医療の提供
3. 看護師の質向上

5 A 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：岩水志津子
副看護師長：今野詩織 島袋璃紗
主任看護師：久米優子 武澤瞳

▶ 業務内容 ◀

許可病床数 37 床

看護基準 7：1

入院診療科：消化器外科・乳腺外科・整形外科・泌尿器科・歯科口腔外科・眼科・小児科・内科

二次応需：外科・整形外科・小児科

入院患者数	1368 名	手術件数	947 件
予約入院	1051 名	消化器外科	236 件
緊急入院	317 名	乳腺外科	102 件
平均在院日数	7.6 日	整形外科	378 件
平均病床利用率	78.0%	泌尿器科	149 件
地域包括ケア病棟転棟	131 件	歯科口腔外科	86 件
平均看護必要度	48.5%	眼科	4 件

▶ 2023年度総括 ◀

5A 病棟は外科系を中心とした混合病棟である。周手術期を主とし、化学療法や終末期、小児科や内科など多岐にわたって対応している。その為、チーム活動を通して診療科の知識や技術の向上に努めた。また、二次性骨折予防のためカンファレンスを強化し、排尿自立支援に対しても取り組みを開始した。インシデントについての共有と対策の検討から病棟全体で再発防止に取り組み、安全な入院環境の提供に努めた。日々行っているカンファレンスの充実を図り、毎月事例検討を行い看護の質向上に向けての取り組みも行った。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

一緒に考え成長できる看護師の育成に努め、知識・技術の向上をはかる。看護の質向上に努めていく。

5 B 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護職員構成：看護師長 井出早百合
副看護師長 滝愛
主任 相原悦子 八木法子
看護師 17 名 看護助手 5 名

▶ 業務内容 ◀

許可病床数 34 床 看護基準 13 : 1
在宅復帰率 80.2% 病床利用率 85.2%
自院転入割合 49.6% 自宅からの入院 41.5% 自宅等からの緊急入院受け入れ 62 名
科別入棟患者数 内科 271 名 整形外科 147 名 外科 13 名 泌尿器科 12 名 眼科 296 名
合計 735 名

▶ 2023年度総括 ◀

2023 年度は平均病床利用率 85.2%と前年度をやや上回った。一般病棟からの転棟 6 割未満をめざし調整を行った。また、今年度は眼科白内障の受け入れや、緊急入院の受け入れを増やしていった。実績として自宅からの入棟は入院全体の 4 割以上と目標の 2 割を上回った。緊急入院受け入れは年間 62 名であった。

緊急入院受け入れに対応できるよう申し送りの短縮やカンファレンスの充実等業務改善に取り組んだ。また、安全な入院環境を提供できるよう PT・OT、栄養士など多職種や補助者との協働に力を入れ、アセスメントと情報の共有を強化した。その結果、転倒転落インシデント事例は前年度の約半数までに減少することができた。しかし、落葉など薬剤関連のインシデントが増加しており、今後の課題となる。緊急入院受け入れは、今後さらに増やしていく必要があり、安全に受け入れができるよう準備を進めていく必要がある。前年度の課題であった救急蘇生に関する学習、看護倫理に関する学習についても継続していく。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

1. 経営への参画（診療報酬改定に伴った病棟での受け入れ体制の構築）
 - ①在宅復帰率の保持 ②一般病棟からの転棟割合 ③自宅等からの緊急入院受け入れ増に対応できるようタスクシフト、業務改善の推進を図る
2. 安全な入院環境の提供に取り組む

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：早乙女珠美

副看護師長：GCU 鈴木楓

看護主任：NICU 渡部由記、武澤瞳（～3/18）、GCU 笠原千紗子

看護スタッフ：NICU 助産師 1名 看護師 21名（新生児集中ケア認定看護師 1名、
集中ケア認定看護師 1名）

GCU 助産師 2名、看護師 8名（新生児集中ケア認定看護師 1名）

▶ 業務内容 ◀

地域周産期母子センターとして、当院出生だけでなく、神奈川県県央北相地区で出生した急性期治療が必要な新生児の受け入れを行っています。主な対象は、早産、低出生体重児、呼吸器管理を必要とする児です。児の発達・発育に応じた支援や、育児指導、患者家族を中心としたファミリーセンタードケアを行っています。

許可病床数 NICU：12床、GCU：14床

看護基準 NICU 3対1、GCU 6対1

2023年度実績

入院総数：199件（内訳：院内出生 141件、院外出生 58件）

院外出生内訳：バックトランスファ 14件、新生児搬送 43件

▶ 2023年度総括 ◀

少子化が進む現代において、入院総数は減少傾向にあります。バックトランスファや新生児搬送の受け入れを拡充していくことが必要です。安全な医療・看護を提供するために、医師、認定看護師の協力を得て勉強会を開催しました。地域周産期母子センター及び後方支援病院として、地域住民の方に安心して選んでいただける施設を目指しました。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

児の救命と健やかな成育、健全な家族関係確立への支援を行う

1. 安全文化の醸成：安全について考える環境作りとコミュニケーションの活性化
2. 連携：関連部署、多職種との協働
3. 人材育成：自律性の向上と学ぶ意欲への支援

専門分野に特化した教育に力を入れ、安全で質の高い急性期治療の提供と、親子関係を形成するために何ができるかを常に考え、ご家族それぞれに寄り添える看護師を育成していきます。

検査治療部門

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：覚張 慕

副看護師長：今井弘恵

看護主任：大嶋美加子

看護職員：常勤看護師 10 名、非常勤看護師 12 名、内視鏡洗浄スタッフ 1.5 名

▶ 業務内容 ◀

- ・安全で安心な検査治療の実施ができる運営と緊急の検査治療に対する積極的な受け入れ
- ・検査治療に関わる看護の実践と質の向上への取り組み（情報共有、勉強会の実施、患者指導の実施）
- ・放射線科造影検査における看護師による静脈注射の実施（CT、MRI）

▶ 2023年度総括 ◀

近年の高齢化、慢性疾患の増加などにより、在宅医療が推進される中、外来部門の診療や看護はますます重要になってきており、検査治療部門もその一角を担っています。多様な背景を持つ患者さんへ対応するために、検査治療部門は血液浄化センター、外来化学療法室、内視鏡室のそれぞれの専門性を持ちつつ、1つ1つが小さな部署のため協力体制をとり業務を行ってきました。また、合同カンファレンスを行うことで部署間の交流を図りながら、お互いの役割についての理解を深めてきました。それぞれが専門性の高い部署であるため、応援は簡単なことではありませんが、引き続き協力体制を維持していきたいと考えます。さらに医師の業務のタスクシフトとして、CT・MRIの造影検査の静脈注射を行っており、当院の働き方改革の推進に貢献しています。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

それぞれの専門性を保ちながら、効率的な部門の運営ができるようにしていきたいと考えています。また、透析療法、がん化学療法は長期にわたり継続的な通院を必要としますので、患者さんの気持ちに寄り添った看護の提供に努めていきたいと考えます。検査治療の安全性や質の担保のため応援体制を継続していきたいと考えています。

VI 事 務 部 門



総務企画課

▶ 職員紹介 ◀

課長：岡村綾子
課長補佐：松永邦夫
総務係長：西山洋介
給与係長：森田聖馬
事務員：赤津咲也子・小林順平・伊藤李花子
非常勤事務員：中島悠子・松浦実・佐藤淳一
非常勤用務員：佐藤和枝
非常勤電話交換手：工藤里子・田中雅子
非常勤清掃員：岸田博隆

▶ 業務内容 ◀

人事（採用、退職）、給与（決定、計算、支給、税務）、労務管理（出退勤、社会保険関係）、福利厚生、調査統計など

▶ 2023年度総括 ◀

2023年度は、課長・係長・係員の異動があり新体制でのスタートとなった。神奈川県と締結している新型コロナウイルス感染症患者用等の確保病床について、5類移行に向け確保病床の見直しを行った。また、第8次保健医療計画から新たに位置づけられた「新興感染症対策」事業の一環として、神奈川県と医療措置協定の締結を行いました。

さらに、2024年度より始まる医師の働き方改革に向けて、ICカードによる出退勤管理の導入にむけシステムの整備を行った。

この他、院内保育所の運営管理、ISO認証にかかる内部監査、会計検査院による実地検査等に取り組んだ一年であった。

これら全ての業務を滞りなく終えることができたのは、偏に課員一人ひとりが努力しスキルを向上させ、業務を互いに補い合った結果の成果である。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

- ・健全に業務を遂行するため、就業規則をはじめ各種規程に基づいた手続き・管理を行い、難しい課題についても課内及び他部署とコミュニケーションを図り解決に努める。
- ・法令等を遵守し、法令改正等があった場合は速やかに対応するし、業務改善に取り組む。
- ・監査等で指摘された事項等については、速やかに改善し再発防止に取り組む。
- ・課内の業務について、主担当以外の業務についても知識を取得し、軽微な事項については対応できるように努める。

経 理 課

▶ 職員紹介 ◀

課長：岡村綾子（併任：総務企画課長）

課長補佐：松本直也

経理係長：内山和也

契約係長：高梨綾子

課員経理係：米山裕子、館山茉奈

課員契約係：浅沼小百合、山本晃大

非常勤営繕手：佐藤雄希

電算室：西山洋介（併任：総務係長）、大野透、盛島良介

▶ 業務内容 ◀

経理係：予算及び決算に関すること。財務諸表等の作成、保管及び公表に関すること。会計記録の確認等に関すること。債権及び債務の総括管理に関すること。現金、預金等の出納及び管理に関すること。診療収益等の管理に関すること。

契約係：契約に関すること（業務委託、保守委託、売買、賃借契約）。建物・附属設備・車両等の営繕・工事及び保守管理に関すること。医療機器の購入・修理及び保守管理に関すること。消耗物品、診療材料等の購入・管理に関すること（医薬品・給食用材料を除く）。電気設備、空調設備、給排水設備及び消防設備等、各種建物設備の保守管理に関すること。清掃及び廃棄物（医療廃棄物、一般及び産業廃棄物）の管理に関すること。防火・防災に関すること。医療ガスの管理に関すること。駐車場（院内・院外）に関すること。

電算室：医療情報システムの企画・導入・構築・運用・管理・セキュリティ・障害対応等に関すること。

▶ 2023年度総括 ◀

経理係：令和5年度は、経理係1名が異動により就任し新体制のスタートとなった。日々の取引を記録し、伝票の入力、帳簿の入力、仕訳の入力及び確認、コロナ対応前や前月との収益比較、費用の適正化に向け関係者への聞き取りを実施するなどし、収支報告書の作成を行った。決算や収支報告書を作成することで、病院の財務状況を把握、材料の棚卸しや減価償却費の計算などし、病院経営に寄与することができた。

契約係：令和5年度は、人事異動により課長補佐が新たに就任し新体制でのスタートとなった。契約業務において、JCHO 調達等合理化計画に基づき、医療機器や委託業務等の購買・契約を入札に付し、競争下において適正な価格、並びに適切な契約に努めた。物品購入においては、価格比較や市場価格に見合った価格交渉を行い費用の削減を行い、病院経営に寄与することができた。

電算室：電子カルテ及び部門システムの安定稼働に向けた取組みの立案、新機能に対する意見や要望の反映、運用の見直し、不具合対策等を行った。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

日々の業務内容を見直し、各自業務の優先順位を考え、時間内に効率良く業務を遂行する。

規程やマニュアル等を熟読し、知識の向上、スキルアップを図り、主担当以外の業務についても知識の習得に努める。

費用削減・無駄の無い在庫管理の徹底・契約の適正化等を図り、最適な提案ができる事務を目指す。

医 事 課

▶ 職員紹介 ◀

＜医事課＞

課長：織田修治（事務部長兼任）

課員：橋本祐希子

▶ 業務内容 ◀

当課は、総合受付（会計）、外来クラーク（外来算定業務）、病棟クラーク、入院算定業務について、業務委託しており、スムーズな情報交換を図りつつ業務管理を行った。また、不安を抱えた患者さん（その家族）と医師をはじめとする各医療専門職との架け橋として、待ち時間の短縮や会計等の医事サービスの提供を心掛けた。

2023年度は、COVID-19が感染症法上の5類に移行したことをうけ、入院患者への面会も部分的に制限はあるものの開始した。

▶ 2023年度総括 ◀

病院職員（総合職）が少ないことも関係し、医事関連業務の委託化が進み、より一層の委託業者との情報共有が必要となった。

そのため、病院職員、委託職員が協力し、患者サービスの充実に力を入れた。また、日常的に行ってきた他医療機関や審査機関との交流により、施設基準、診療報酬に係る情報交換をスムーズに行うことができた。

最後に、医事課病院職員が少ない中、体調不良者（感染症を含む）が出ることなく一年を乗り越えることができたことが何よりの結果であった。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

- ・経営の安定への貢献：病床利用率確保、上昇、新規入院患者獲得への取り組み、ベッドコントロールを見据えた働き、経営利益の増・費用の削減、事業収益規模の変動等を勘案した適正人員の見直し
- ・地域連携の強化：地域医療支援病院となるため、また、紹介受診重点医療機関としての紹介・逆紹介率の向上等諸要件の確立支援への取り組み
- ・職場環境の改善：コンプライアンスの遵守、業務改善による超過勤務の抑制・平準化の徹底、働き方の見直し超過勤務の廃止、業務手順書等マニュアルの整備・充実

診療情報管理室

▶ 職員紹介 ◀

専門職 鹿島一智

室員 深澤加寿子、宮川楓、福澤幸世、大川恵美子、有田真由美

▶ 業務内容 ◀

DPC コーディング、退院患者調査管理（様式1、様式3、様式4、入外EFファイル、Dファイル、Kファイル、Hファイルの確認・作成）、入院診療情報管理、全国がん登録、全退院患者の病歴管理、退院時要約2週間以内・30日以内完成率の管理、転科時要約の管理、各種依頼統計データ作成、電子カルテデータ抽出及び匿名化作業、全退院患者の持参薬登録、病院情報の公表、診断群分類研究支援機構へのDPCデータ提供、診療記録の量的監査・質的監査、NCD登録（外科・泌尿器科）、スキャン取り込みリストの管理、地域包括ケア病棟転棟者リスト作成、カルテ開示 等

▶ 2023年度総括 ◀

今年度より新たな業務として地域包括ケア病棟転棟者リスト作成とカルテ開示対応が追加となった。地域包括ケア病棟ベットコントロールの対象者を抽出するシステムの改善、手順書の整備を行い、対象者の情報を毎日提供している。カルテ開示についても手順書の整備や開示管理簿の作成をおこなった。

また、医事関連部署の業務協力として、地域連携室の紹介状登録業務や近隣クリニックへ挨拶回りを行うようになった。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

診療報酬改定の年になるため、個人個人の理解に偏りが無いよう例年以上に情報共有を強化していく。また、改定によりDPC期間が変更された疾患については適切なパス日数の情報提供を行い、既存パスの日数見直しについて提案を行っていく。

診療情報管理士業務のみならず、関連部署の業務知識も必要になることから、より一層多職種との連携を図っていく。

医事課 医師事務作業補助員

▶ 職員紹介 ◀

常勤：星山直美、座間未希、任期付常勤：中辻あゆみ、樋口和佳奈、非常勤：遠藤香
派遣職員：佐藤永奈、高橋久美子、水王遙、小野寺早苗、龍智子

▶ 業務内容 ◀

■ 文書作成補助

- ・退院時（転科時）要約代行作成（内科・外科・産婦人科・小児科・眼科・泌尿器科・歯科口腔外科）
- ・保険会社診断書等の書類代行作成（全科）
- ・紹介状返信代行作成（産婦人科・歯科口腔外科）

■ 代行入力

- ・検査オーダー代行入力（内科・血液浄化センター・外科・地域連携室）
- ・検査説明（内科・産科・外科・血液浄化センター）

■ 医師の質向上に資する事務作業

- ・NCD 登録（循環器内科）
- ・周産期登録、周産期集計、婦人科手術集計（産婦人科）
- ・大腸癌手術症例登録（外科）
- ・JOANR 登録（整形外科）

■ 診療補助（内科）

■ その他

- ・PACS 読影レポート既読管理業務
- ・内視鏡予約キャンセル管理
- ・医師への電子カルテ操作説明
- ・主治医意見書の文書管理

▶ 2023年度総括 ◀

内科診療補助においては徐々に拡大し、週4回に加えて外来の状況に沿った対応ができた。

これまでも当部署で発生したインシデントの見直しを行ってきたが、定期的に有効性の評価ができるよう平準化した。新たな問題点・改善点の気づきがあり、部署内で再発防止の意識付けとなっている。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

- ・診療にあたり細やかな支援ができるよう部署内外の情報共有を重視する。
- ・継続的に部署内の勉強会を開催し、知識習得に努める。
- ・患者さんに寄り添い、分かりやすく丁寧な説明を心がける。

安全管理室

▶ 職員紹介 ◀

安全管理部長：林京子（医師）、室長：新井 正秀（医師）

感染管理担当：今井純好（ICD、感染防止対策委員長）、井上光子（ICN、副委員長）、他 19 名
医療安全管理者：土橋 ひろみ（看護）

安全管理室構成員：石井隆司（医師）、鳴澤勝行（放射線）、田邊和生喜（薬剤）→佐野真由
実 8 月より変更（薬剤）平川智子（臨床工学技士）、高橋努（事務）、大
川恵美子（事務）、米今裕子（事務）

▶ 業務内容 ◀

（医療安全）

- ・医療安全地域連携加算 1 取得と地域連携施設とのカンファレンス、安全ラウンド（8 回 / 年）
- ・医療安全管理指針とマニュアル見直し ・安全予防委員会と連携し院内安全ラウンド（毎月）
- ・医療安全対策実施状況の確認・指導・助言
- ・新入職員研修・看護部医療安全研修（新人 2 回、看護補助者、ラダーⅢ、Ⅳ）
- ・全職員への教育・院内研修実施（e ラーニング形式で研修対応、講義とロールプレイでの研修）

（感染管理）

- ・院内感染発症の分析と再発防止の検討
- ・感染症発症時の職員、患者への感染対策の確認と指示
- ・定期的に院内ラウンドを実施し、感染防止対策の実施状況の確認、指導、助言
- ・院内における抗菌薬使用の管理
- ・感染防止対策マニュアル、COVID-19 対応マニュアルの見直し、改訂
- ・全職員への教育 ・他施設との感染防止カンファレンスに参加（年 4 回）

▶ 2023年度総括 ◀

（医療安全）今年度は持参薬の未投薬による事例の発症があり、持参薬運用を見直した。医師の持参薬指示入力の方法を、カルテに服薬する持参薬を記載、指示簿に必要な有無、休薬・再開の指示を入力することを統一した。また、看護師は既往・病態をアセスメントし、必要薬指示の未入力時は医師に依頼、薬剤師は休薬指示薬の通常再開とされる時期に、指示がない場合は医師に確認するとした。以上患者に必要な薬剤の未投薬防止について手順を作成し、職員への周知後運用を開始した。

（感染管理）5 月 8 日より COVID-19 は感染症法上の位置づけが 2 類から 5 類へ移行となった。施設内でのマスク着用は推奨事項だがそれ以外の感染対策は各施設に任された。自施設がどこまでの対策をとるのか考え方を整理したうえでマニュアルの改訂を行った。その際に市内の会議や ICN ネットワーク会議を医療機関同士の発生动向や対策について情報共有を行うとともに相談の場として活用した。感染対策の変更箇所の周知は、医師や各部門の所属長が参加する部長会議で説明し、自部署への説明を依頼したことにより職員への周知が速やかにできた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

（医療安全）・アクシデント 3b 以上の発生低下（昨年度 13 件）

- ・医療安全マニュアルの整備と指針修正
- ・多職種の協力のもと、院内全体での医療安全意識を向上することができる

（感染管理）・院内の感染症発生時に速やかな対応ができる

- ・抗菌薬適正使用を推進していく

総合患者支援センター

▶ 職員紹介 ◀

- センター長：今崎貴生（副院長）
- 地域連携室 室長：吉田宗紀
事務員：菊池紀子(10月末)、藤ヶ崎彩夏(10月末)
2023年11月より業務委託
事務員：鈴木久美子、伊藤晴夏、石川留美、北村亜沙美
- 入退院支援看護師：瀬戸口望、小宮聡子
- 患者相談窓口 看護師：鮎澤奈穂子
- 医療福祉相談室 室長：吉田宗紀
ソーシャルワーカー：長塚裕二（12月31日まで）、坂東香織、（2月1日より）山本裕美、佐藤麻優

▶ 業務内容 ◀

総合患者支援センターは、医療連携、入退院支援、医療福祉相談、患者相談窓口の4つの機能を有しており、医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務員で構成され、地域の皆様と患者さんのご要望にお応えできるよう、院内外の調整と支援を行っている。

▶ 2023年度実績 ◀

〔医療連携部門〕

診療科	紹介件数	逆紹介件数
内科	3,393	2,797
小児科	222	397
外科	403	530
整形外科	595	770
皮膚科	42	52
産婦人科	587	187
眼科	286	309
歯科口腔外科	1,319	1,598
泌尿器科	362	276
計	7,209	6,916

受診・検査受付件数		
受診依頼	外来	190
	入院	259
	救急	252
	計	701
検査サービス	CT	168
	MRI	142
	MMG	0
	内視鏡	15
	計	325

紹介率	81.5%
逆紹介率	66.7%

〔医療相談部門〕

相談件数			支援内容		回数
診療科	回数	人数			
内科	4,868	799	在宅退院	在宅退院をするための在宅ケア諸サービスの活用援助	1,362
小児科	39	6	転院援助	転院のための病院施設などの選定援助	886
外科	303	64	施設入所	転院のための介護施設等の選定援助	1,405
整形外科	1,060	156	制度利用	社会保障制度、福祉制度などの活用についての援助	346
皮膚科	6	3	退院後	退院に伴う様々な問題へ対し、不安の軽減と取組を促す援助	1,862
泌尿器科	83	21	受療援助	当院への受診や入院についてのサポート	41
産婦人科	31	6	療養生活	療養生活上の課題、心理社会的問題の解決等に対する援助	230
眼科	14	4	医療費等	医療費など経済的問題に対する援助	102
口腔外科	0	0	関係調整	患者さん・家族・職員・地域などの人間関係に対する援助	177
その他	24	4	情報提供	患者さんの支援における関係者への情報提供、情報交換	627
計	6,428	1,063	その他		57
				計	7,095

▶ 2023年度総括 ◀

医療連携部門では、2023年度も近隣医療機関から多くのご紹介をいただいた。

2023年10月より「紹介受診重点医療機関」として神奈川県より公表されたことをうけ、今後もさらなる医療連携の強化に結びつくよう、紹介率・逆紹介率を共に伸ばせるよう継続していきたい。

対外行事は、コロナ禍でストップしていた「顔の見える医療連携の会」を4年ぶりに開催、「地域連絡協議会」の開催、製薬会社と共催による「地域連携セミナー」のWEB開催が出来た。退院支援部門においては、在宅療養支援のケースだけでなく、転院や施設入所支援をするケースもコロナ禍前と同程度まで増えてきている。引き続き地域の医療、福祉の支援者との連携を大事にしていきたい。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

対外行事の開催や地域の医療機関への訪問活動の強化など、総合患者支援センター職員が一体となって、近隣医療機関や福祉関係者等との連携を引き続き行っていきたい。

洗濯室

▶ 職員紹介 ◀

非常勤用務員 佐藤和枝

▶ 業務内容 ◀

リース寝具、リースリネン類の管理

リースタオル類の管理

委託洗濯品の管理

院内選択

縫製、修理

医師用当直室準備などの院内業務

感染汚品の一次消毒業務

▶ 2023年度総括 ◀

リース品の使用が円滑に出来るよう管理業務の遂行と、衛生面に配慮し、感染汚品の一次消毒を1名体制で行って来ました。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

情報収集に努め管理業務、院内業務の円滑な遂行と、衛生面に注意を払い、感染汚品お一次消毒業務に取り組んでいきたい

掛布団	パット	枕	小児用掛布団	小児用パット
5,865	153	5,970	8	8
包布	シーツ	枕カバー	横シーツ	防水シーツ
18,170	24,140	17,930	1,620	16,360

タオル (白)	バスタオル	バスマット	タオルケット	ハーフタオル
41,480	69,440	20,190	5,270	3,430

バスタオル	予防着	ベビーシーツ	コットカバー	小児用枕	胸当ガーゼ	沐浴タオル
732	6,853	308	645	0	13	7,049
水枕カバー	タオル	湯たんぽカバー	手術衣(患者用)	ラバーシーツ	ピロカバー	袋
3,827	303	266	3,313	11	2,899	101
小児用毛布	靴下	四角布	手術衣	クッション	便器カバー	エプロン
593	7,308	896	12,395	0	331	247
ボックスシーツ	タオルケットベビー	その他のカバー	その他	合計		
0	0	2,239	6,720	57,049		

VII 健康管理センター



健康管理センター 診療部

▶ 職員紹介 ◀

- 五十嵐敬子（センター長、専門：循環器内科 総合内科専門医、日本循環器学会専門医、人間ドック健診指導医、人間ドック健診情報管理指導士、日本医師会認定産業医）
- 矢那瀬信雄（副センター長、専門：呼吸器内科 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医、ICD 協議会認定インфекションコントロールドクター、日本医師会認定産業医）
- 宮島江里子（副センター長、専門：公衆衛生 労働衛生コンサルタント、日本産業衛生学会指導医、人間ドック健診指導医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本医師会認定産業医）
- 吉田宗紀（部長、専門：外科 日本消化器病学会指導医、人間ドック学会認定医、日本プライマリケア連合学会指導医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本医師会認定産業医）
- 押田小百合（専門：外科 日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳腺認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、乳がん検診超音波検査実施判定医、人間ドック健診専門医、日本医師会認定産業医）

▶ 業務内容 ◀

院内、出張型健診での診察、結果説明業務に加え、各専門医による読影（心電図、胸部単純 X 線・CT、上部消化管造影・内視鏡、乳腺画像診断、脳 MRI など）を実施している。相模原市や座間市の自治体健診、予防接種、近隣企業の定期健康診断、産業医業務を通して、地域医療における予防医療およびプライマリケアの役割を担っている。

▶ 2023年度総括 ◀

- 2023 年度の受診者数（延べ）：58,861 人（内訳：院内健診 31,922 人、院外健診 26,939 人）。午前 90 ～ 100 人・午後 30 ～ 40 人の受診枠を継続し、1 日 130 人の健診を実施することができた。
- 月 1 回（原則第 3 土曜）の土曜日健診も行った。
- 新規オプション検査として、デジタルツールを活用した脳機能健診「のう KNOW」を追加した。
- また、帯状疱疹ワクチン「シングリックス」の接種を開始した。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

- 質の高い健康診断、正確な健診結果を基本にして、業務を遂行する。
- 各部署の連携をスムーズにし、よりよい受診環境を整える。
- 内視鏡室の拡充に伴い、上部内視鏡検査の受診者を確保し、実施件数を増やす。

健康管理センター 看護部

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：豊家亜矢
副看護師長：中澤直子
主任看護師：星身和子
保健師：4名、看護師：8名

▶ 業務内容 ◀

院内及び院外の健康診断における計測、採血、聴力などの実施。その他に、診察介助や医療面接（健診前問診）、特定保健指導、健診事後指導、電話相談、予防接種等。

▶ 2023年度総括 ◀

地域の皆様が安心・安全に健康診断を受診できるように、知識・技術・接遇の向上に努めました。また、待合室の保健指導のパワーポイントを更新し、健康診断の待ち時間を有効的にご利用していただけるように環境を見直しました。さらに、時代の変化に対応すべく、特定保健指導の遠隔面接を導入しました。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

1. 第4期特定健診・特定保健指導を円滑に実施する
2. 地域の皆様の健康作りを支援していくために、きめ細かい関わりをする
3. 看護師としての技術を向上させ、臨機応変な対応を身に着ける

健康管理センター 事務部

▶ 職員紹介 ◀

課長補佐：長福 貢一

課員：山下めぐみ、高橋努、生駒ユミ（2024年1月退職）、金澤麻里、江原睦美（2023年9月退職）、五味俊介、会沢遥（2023年5月退職）、菊池紀子（2024年1月異動）

非常勤：鳥海志津子、前田明美

▶ 業務内容 ◀

人間ドック（日帰り・1泊コース） 生活習慣病予防健診 主婦健診 定期健康健診（法定健診）
相模原市特定健診 特殊健診 巡回健診車による健診、各種ワクチン接種などの事務に関する
こと

2023年度実績（件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診者件数	6,026	4,606	6,175	4,773	4,500	4,870	5,391	6,110	4,833	3,861	3,626	4,090	58,861
内 院 内	1,783	2,338	2,893	2,711	2,909	2,793	3,055	2,824	2,699	2,486	2,649	2,782	31,922
内 院 外	4,243	2,268	3,282	2,062	1,591	2,077	2,336	3,286	2,134	1,375	977	1,308	26,939
人間ドック	335	391	660	605	581	618	711	671	652	503	479	622	6,828
市特定健診	90	259	256	282	333	354	368	380	404	454	549	367	4,096

▶ 2023年度総括 ◀

2023年度は、健診センターの収益として年間11億円維持を目標とし、今年度も達成することができ、過去最高の数字を更新することができた。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

2024年度は、職員の人事異動による入れ替えにより、質の低下を起さぬよう切磋琢磨し、継続してご受診いただける「健診センター」を目指していきたい。

VIII 訪問看護ステーション



訪問看護ステーション

▶ 職員紹介 ◀

看護師長 石川由美

常勤看護師：2名 非常勤看護師：2名 非常勤事務：1名

▶ 業務内容 ◀

バイタルサイン測定、排便コントロール、清潔ケア援助（入浴・シャワー浴・清拭・洗髪・陰部洗浄・足浴・爪切り等）食事指導、ターミナルケア、リハビリテーション・療養相談・療養指導・介護相談・介護指導、

医療処置：在宅酸素の管理、胃瘻、腸瘻、人工肛門、人口膀胱、吸引、バルンカテーテル管理、CVポート、抹消点滴、皮下持続点滴、創傷処置、褥瘡処置、気切管理、腹水穿刺後の対応、輸血等の対応

<訪問利用者実人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	65	59	60	56	54	56	56	56	55	59	62	63
医療	10	14	11	9	9	9	7	8	7	4	4	6
合計	75	73	69	65	63	65	62	64	62	63	66	69

<訪問看護延べ件数> 合計：3522件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	258	237	237	222	244	226	227	196	208	206	226	244
医療	81	105	104	85	86	76	74	63	49	15	19	33
合計	339	342	341	307	330	302	301	259	257	221	245	277

<新規利用者> 合計：57名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	3	2	0	2	2	4	1	5	2	5	6	3
医療	2	4	1	2	1	1	0	4	2	1	2	2
合計	5	6	1	4	3	5	1	9	4	6	8	5

<終了者> 合計：62名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
死亡	病院	2	7		2	3	1	3	1	2	2	1	1	25
	在宅	1	4		1	3		1	4	1		1		16
入院		1				1	1				1			4
施設入所		2	1	1	1			2	1		2			10
その他				2				3		1	1			7
合計		6	12	3	4	7	2	9	6	4	6	2	1	62

<重症者の受け入れ状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	33	36	30	28	26	28	24	23	21	20	25	20

＜指示書医療機関＞

相模野病院：49% 他病院：10% その他の診療所： 41%

▶ 2023年度総括 ◀

一年間の訪問件数が3,522件、一日平均14.5件/日でした。前年度より-706件 一日平均訪問件数は-2.9件/日となっております。在宅看取りの件数が16件、そのうち2件が独居の利用者で、訪問診療、定期巡回型訪問介護と連携を図り在宅看取りをすることが出来ました。利用者が最後まで過ごしたい場所で最後を迎えることが出来るよう、支援を行ってまいりました。また、利用者の状況に応じて看護小規模多機能型居宅介護へ繋ぎました。訪問時に利用者の病状だけでなく生活、介護者の負担などの色々な角度からアセスメントを行い、それぞれの状況にあったサービスを利用できるように多職種との連携を図りサービス提供を行った一年となりました。

▶ 2024年度目標・計画 ◀

1. 訪問件数の増加 1人当たり1日4件
2. 看護の質の向上
3. 働きやすい環境づくり
 - ①待機当番の負担軽減 ②オンコール出動後の休息 ③年休所得の推進

IX 学 術 業 績



循環器内科

学会発表			
演題名	聴診を契機に診断に至った上行大動脈人工血管の中枢側吻合破綻による急性心不全の1例		
演者・発表者	大木卓巳、中島光貴、野島彩希、山田薫梨、佐生貴洋、江畑晃一、朝倉清史、藤石珠美、今泉弘		
学会名	日本内科学会関東地方会	発表年月日	2024年2月10日

乳腺外科

学会発表			
演題名	ペムブロリズマブを投与した TN (Triple-negative) 乳癌 一般病院の試み		
演者・発表者	林京子、藁谷美奈、羽廣健仁、小寫慶太、仙石紀彦、犬飼円、三階貴史		
学会名	第31回日本乳癌学会学術総会	発表年月日	2023年6月30日
演題名	当院におけるがんゲノム医療連携の取り組みと要望		
演者・発表者	藁谷美奈、小寫慶太、羽廣健仁、菊池真理子、佐々木治一郎、林京子		
学会名	第31年回日本乳癌学会学術総会	発表年月日	2023年6月30日

産婦人科(周産期母子医療センター)

学術論文			
論文名	胎児期に腹腔内臍帯静脈瘤と卵円孔狭小化症を診断し分娩時期に苦慮した一例		
著者	池之内恵利華、他		
書名(刊・号・頁)	神奈川産科婦人科学会誌	発行年月日	2024年3月

消化器内科/内視鏡室

学術論文			
論文名	膵体尾部欠損症に合併した IPMN 由来浸潤癌の一例		
著者	蓼原将良、今泉弘、渡辺真郁、三枝陽一、金明哲、井廻佑介、小川大輔、奥脇興介、升谷寛以、玉置明寛		
書名(刊・号・頁)	膵臓 (0913-0071) 38 卷 3 号 Page A469	発行年月日	2023.07

臨床検査部

学会発表			
演題名	当院における乳腺外科カンファレンスの取組み		
演者・発表者	中村杏奈		
学会名	第59回首都圏支部・関東甲信支部 医学検査学会	発表年月日	2023年11月25日

リハビリテーション室

講演会			
演題名	職業講話		
演者・発表者	蒔澤 香菜子		
学会名	杉並区立大宮中学校	講演年月日	2024年3月9日
演題名	職業講話		
演者・発表者	遠峯綾子		
学会名	杉並区立大宮中学校	講演年月日	2024年3月9日

検査治療部門

学会発表			
演題名	外来化学療法を受けるがん患者の療養生活における気がかりとオリエンテーション時に看護師に期待すること		
演者・発表者	大嶋美加子		
学会名	日本がん看護学会	発表年月日	2024年2月25日

健康管理センター（診療部）

学会発表			
演題名	某医療機関職員14人の新型コロナウイルスワクチン3回目接種後の副反応とスパイク特異的IgG抗体の抗体価についての調査		
演者・発表者	宮島江里子		
学会名	第64回日本人間ドック学会学術大会	発表年月日	2023年9月2日

2023 年度年報

2024 年 7 月印刷

2024 年 7 月発行

発行者 独立行政法人 地域医療機能推進機構
相 模 野 病 院

神奈川県相模原市中央区淵野辺 1 - 2 - 30

印刷所 株式会社相模プリント



独立行政法人 地域医療機能推進機構

相模野病院